

平成 7 年度

年報

屋久島森林環境保全センター

目 次

I	森林生態系保護	1
1	学術機関との連携・調整会議の開催及び調査研究に関する計画の立案	1
2	モニタリングの実施	1
(1)	森林帯と林相（植生の分布調査）	1
(2)	屋久島国有林における水質調査	10
3	ヤクシマシャクナゲの保護増殖事業	11
4	農林水産省ゾーンバンク事業	15
(1)	ヤクタネゴヨウの遺伝資源収集及び保存・増殖	15
(2)	著名ヤクスギの遺伝資源収集	16
II	治 山	17
1	平成7年度治山事業一覧表	17
(1)	コンクリート谷止工	17
(2)	山腹工	17
(3)	吊橋の設置	17
(4)	管理歩道の作設	17
(5)	管理歩道、展望台の設置	18
(6)	その他	18
2	屋久島における気象観測施設の配置	19
III	普及教育・森林空間利用	20
1	森林教室の実施	20
2	森林空間利用（森林環境整備推進協力金）	22
(1)	白谷雲水峽森林環境整備推進協力金の導入	22
(2)	ヤクスギランド森林環境整備推進協力金の実施	25
(3)	資料室の整備（保全センター保有図書一覧表）	28
IV	その他の事業	32
1	森林パトロールの実施	32
2	屋久島の森シンポジウム	34
3	世界自然遺産セルフガイドブック（屋久島の森林） ^{もり} の作成	36
4	広報活動 保全センター所報「洋上アルプス」の作成	37
V	保全センターの主要行事	37
VI	新聞報道	39

I 森林生態系保護

1 学術機関との連携・調整会議の開催及び調査研究に関する計画の立案

目的	学術研究機関との連絡調整会議を設置し、業務の調整、モニタリングプロットの設置等についての意見交換を行うことを目的とする。		
開催日時	平成7年5月12日	会場	熊本営林局
会議内容	1 保全センターの概要説明 2 連絡調整について ア 来島する研究者の調整 イ 各研究機関の情報収集 ウ 情報の提供 3 モニタリング等について ア ヤクスギの分布状況調査など動植物相の調査 イ 森林環境調査の固定プロットの設定・定期調査 4 その他意見交換		

2 モニタリングの実施

(1) 森林帯と林相 (植生の分布調査)

目的及び趣旨

このプロットは、長期的に森林の移り変わり(遷移)を観察することで、屋久島の貴重な森林環境の保全に資することを目的に設定するものである。調査の対象は屋久島の代表的な森林と、気候帯ごとに設置する。また、調査における、データ及びフィールドは、屋久島関係を調査研究する大学や研究機関に提供する。調査の具体的手法は森林総合研究所九州支所暖帯林研究室より指導を受けながら実施した。

調査の経過

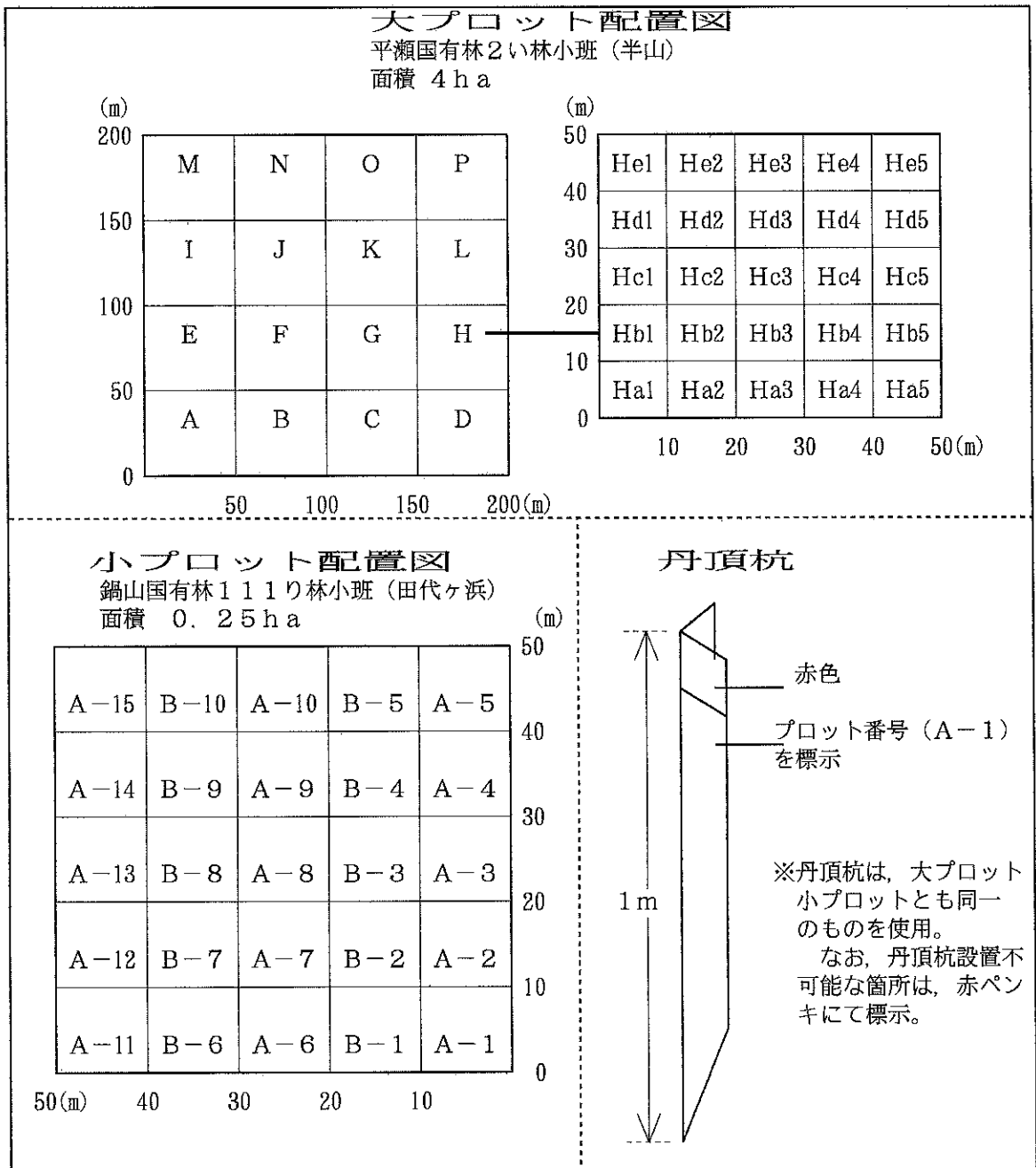
調査プロットは屋久島の代表的な森林を対象にした0.25ha(50m×50m)の小プロットと、気候帯を対象に4ha(200m×200m)の大プロットを設置する。(具体的設定方法及び箇所は、別紙1,2のとおり。)

実施要領

- ① 現地踏査を行いプロット設置に適した箇所を決める。5年後の再調査と通勤等を考慮し、調査箇所を決定。
- ② 区域の設置は、基本的に大プロットと小プロットは同じである。調査プロットの区域内を10m×10mのブロックに区分し、丹頂杭で表示。(図-1参照)
- ③ 距離は、水平距離(10m)を斜距離に換算し現地測量を実行。(図-2参照)
- ④ 調査項目は、樹種、胸高周囲(mm単位)、樹幹位置図を記録する。また、わからない樹種については、?を備考欄に記入し枝葉を持ち帰り調べる。(図-3参照)
- ⑤ 測樹は、胸高周囲長を計測するものとし、計測箇所の上方にナンバーテープを3針止めとする。(別紙3. 測樹要領参照)
- ⑥ 野帳はパソコンにより集計、樹種別にデータを作成。(別紙5. 6参照)
- ⑦ プロット全体の位置図を作成。(別紙2参照)
- ⑧ プロットの概要や位置図を標示した看板の設置。(別紙4参照)

実行結果

表-1によりデータ及び成果等を添付。集計結果は、別紙5,6のとおり。



(図-1)

水平換算距離表				測量野帳					
高低角	斜距離	高低角	斜距離	起点	測点	方位	傾斜角	斜距離	備考
1°	10.00m	26°	11.13m	Ka3	Ge3	265	-18	10.5	
2°	10.01m	27°	11.22m		Ge2	310	+6	14.2	
					Ge4	220	0	14.1	
				Ge3	Gd3	265	-22	10.8	
24°	10.95m	49°	15.24m		Gd4	220	+20	15.0	
25°	11.03m	50°	15.56m		Gd2	310	-15	14.6	

(図-2)

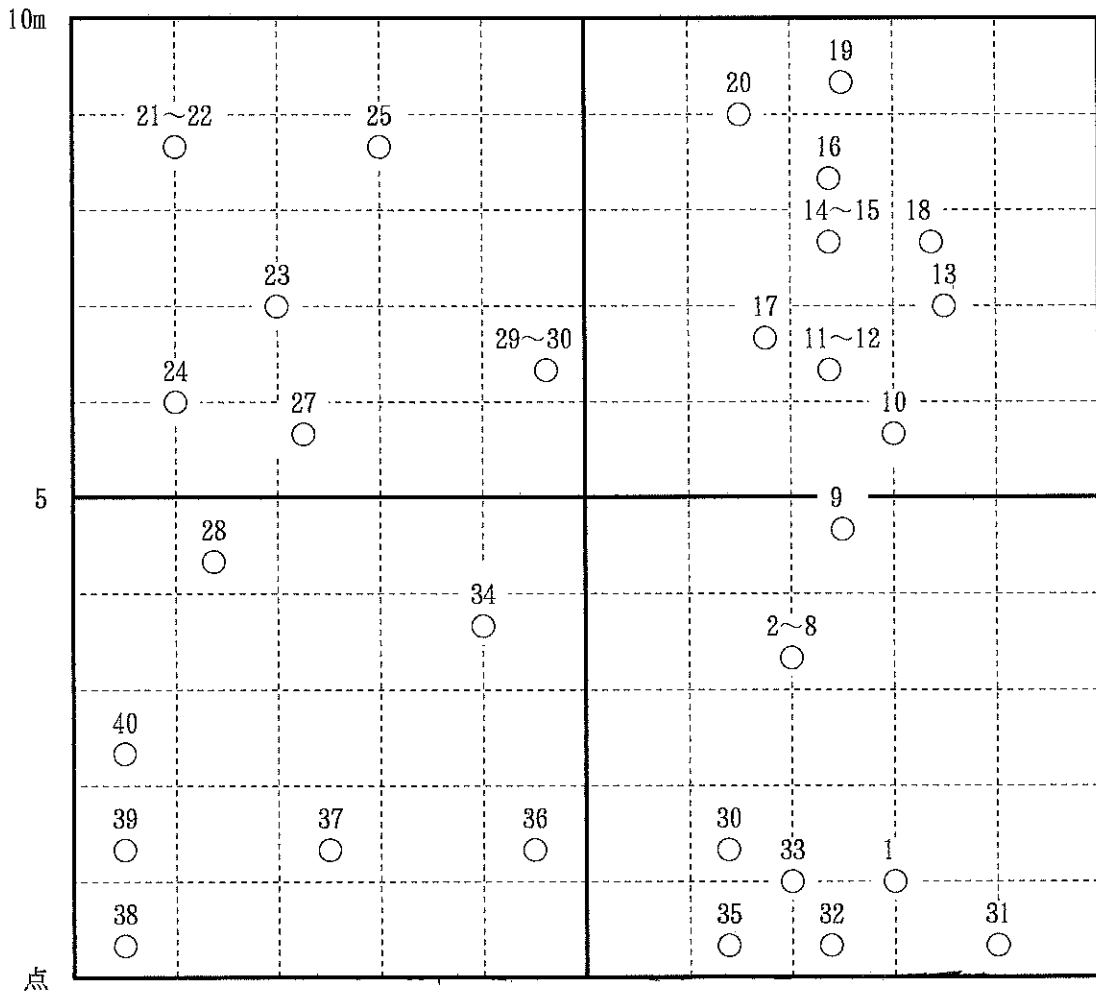
モニタリングプロット調査野帳

ブロック番号 Aa1

番号	樹種	胸高周囲	備考	番号	樹種	胸高周囲	備考
1	ササ	80.6	龍テープ	21	サクラツツジ	28.2	龍テープ
2	マテバシ	43.5		22	〃	25.3	二又
3	〃	29.3		23	タブノキ	27.1	
4	〃	22.2		24	リンコツバキ	16.4	
5	〃	16.6	欠	25	カハナ	46.5	
6	〃	31.6		26	イカシ	104.0	
7	〃	20.9		27	ササ	21.0	
8	〃	70.7		28	サクラツツジ	18.7	同株
9	シカシ	23.1		29	〃	21.8	
10	カハナ	34.1		30	ササ	44.7	
11	モク好ハナ	35.0	二又	31	リンコツバキ	26.9	
12	〃	23.5		32	ササ	26.9	
13	カハナ	81.6	欠	33	イカシ	17.3	
20	モク好ハナ	76.4		40	タミン好ハナ	25.0	

樹幹位置図

(10m×10m)

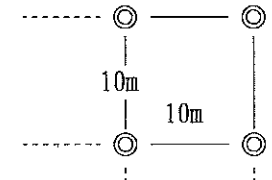


(図-3)

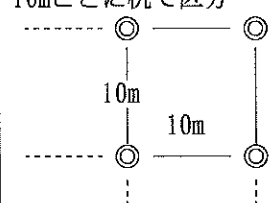
別紙1

プロット設定方法及び設置個所

1 大プロット

NO	プロット名	設置場所 (標高)	地域指定	設置方法	調査内容
1	暖帯性下位	平瀬国有林 2い林小班 西部林道沿い	<ul style="list-style-type: none"> ・森林生態系保護地域 ・世界自然遺産登録地域 ・国立公園特別保護区 	<ul style="list-style-type: none"> ・面積4ha (200m×200m) ・10mごとに杭で区分 	<ul style="list-style-type: none"> ・樹種 ・胸高周囲(15.7cm以上を計測) ・樹間投影 ・定点からの写真撮影 ・5年ごとの調査
2	移行帯	調査時点で検討			
3	暖帯性上位				
4	温帯				

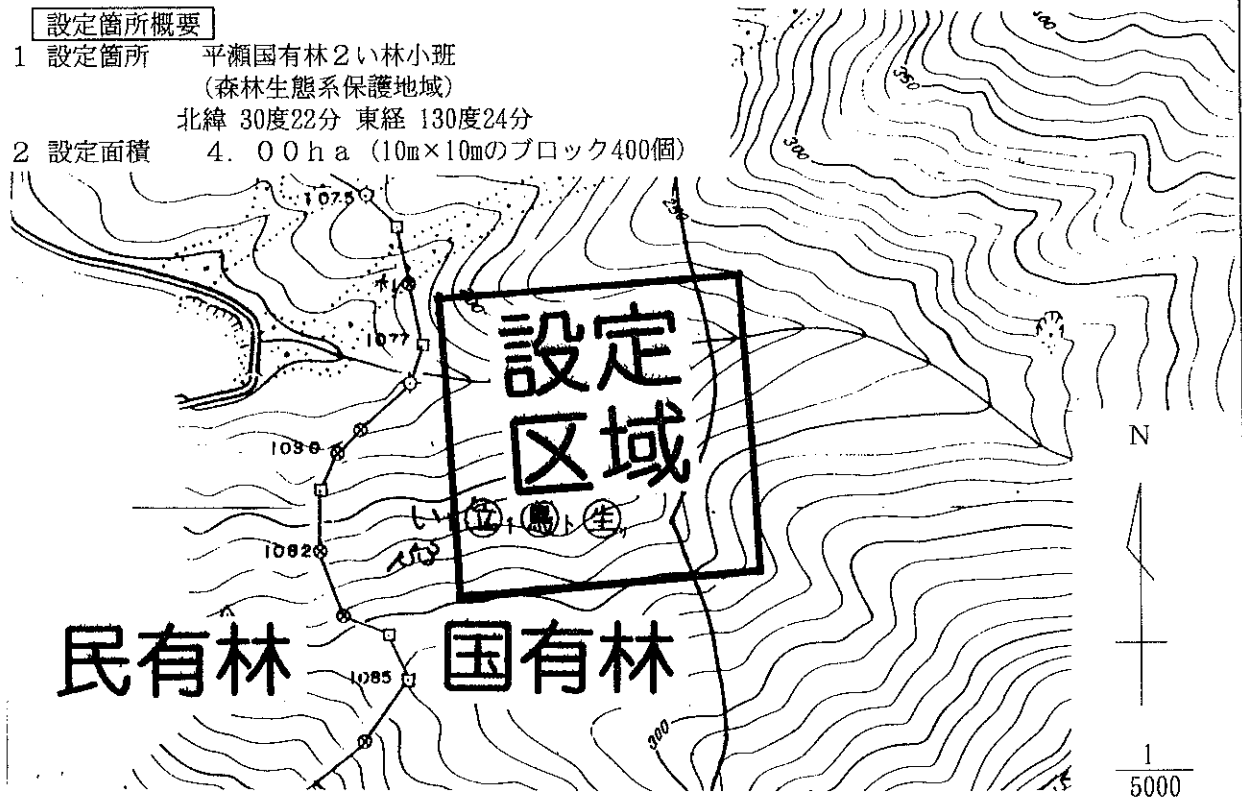
2 小プロット

NO	プロット名	設置場所 (標高)	地域指定	設置方法	調査内容
1	海岸低地林	111り 田代ヶ浜 (20m)	風景林 潮害防備保安林	<ul style="list-style-type: none"> おおむね0.25ha (50m×50m) 10mごとに杭で区分 	<ul style="list-style-type: none"> ・樹種 ・胸高周囲(15.7cm以上を計測) ・樹間投影 ・定点からの写真撮影 ・5年ごとの調査
2	イスノキ群生地	215い 白谷雲水峡 (640m)	森林生態系保護地域 自然休養林 保健保安林		
3	ヒメシャラ群生地	228い 旧高塚小屋付近 (1,300m)	森林生態系保護地域 国立公園第1種特別地域		
4	天然コスギ群生地	99に ウツノ株周辺 (1,040m)	森林生態系保護地域 水源かん養保安林 国立公園特別保護区		
5	山頂低木林	93へ 投石岳付近 (1,780m)	森林生態系保護地域 世界自然遺産登録地域 水源かん養保安林 国立公園特別保護地区 史跡名称天然記念物		
6	照葉樹林帯	56は モチヨム岳 (220m)	森林生態系保護地域 世界自然遺産登録地域 国立公園特別保護地区 史跡名称天然記念物	<ul style="list-style-type: none"> 10m×250m(帯状) ラインコンパス法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤクタネゴヨウ ・胸高直径 ・樹高 ・樹間投影 ・稚樹発生調査 ・定点からの写真撮影 ・5年ごとの再調査
7	ヤクタネゴヨウ群生地	4い 西部林道 (400~500m)	森林生態系保護地域 国立公園特別保護地区 世界自然遺産登録地域 土砂流出防備保安林		
8	高層湿原	22ハ 花之江河 (1,560m)	森林生態系保護地域 国立公園特別保護地区 史跡名称天然記念物 世界自然遺産登録地域		

永久プロット設定箇所位置図

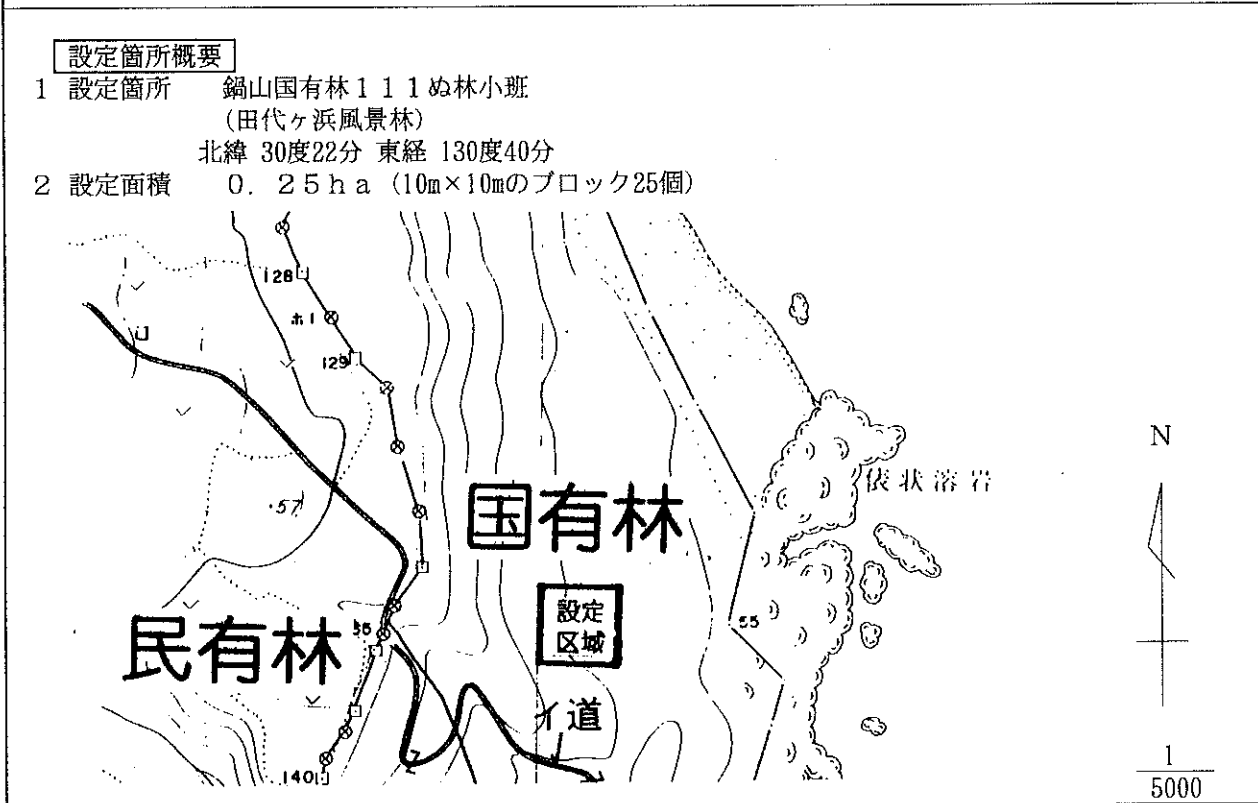
設定箇所概要

- 1 設定箇所 平瀬国有林2い林小班
(森林生態系保護地域)
北緯 30度22分 東経 130度24分
- 2 設定面積 4.00ha (10m×10mのブロック400個)

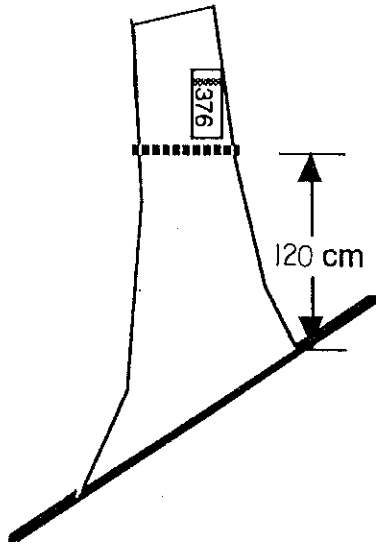


設定箇所概要

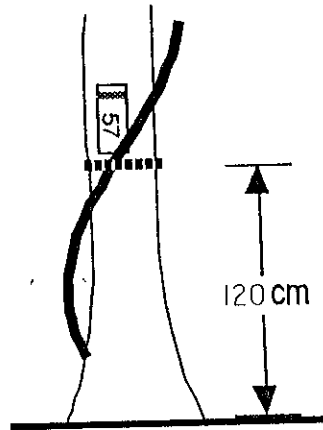
- 1 設定箇所 鍋山国有林111ぬ林小班
(田代ヶ浜風景林)
北緯 30度22分 東経 130度40分
- 2 設定面積 0.25ha (10m×10mのブロック25個)



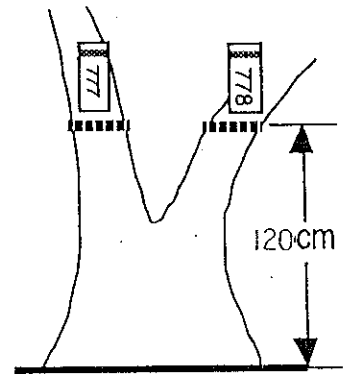
測樹要領



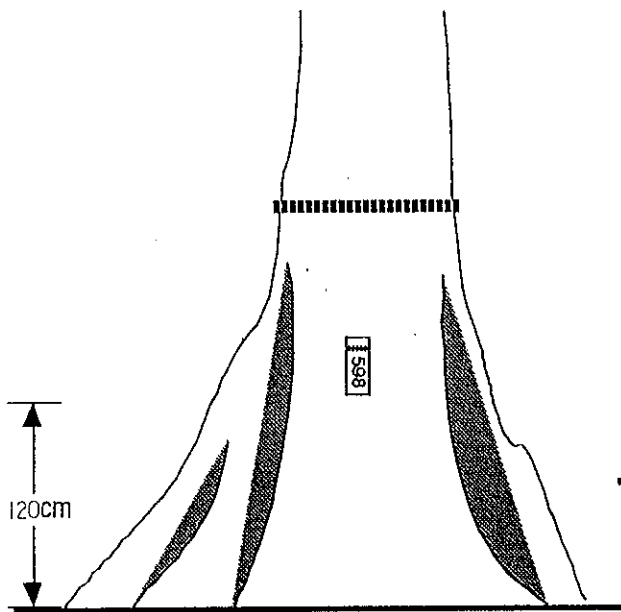
斜面山側の胸高を計測する。



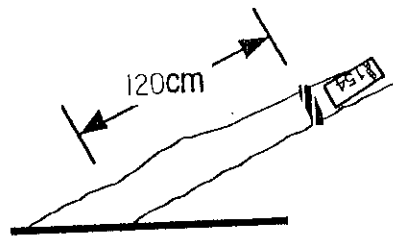
ツル等が巻いておりはずれない場合は、ツルを含めた胸高周囲を計測する。



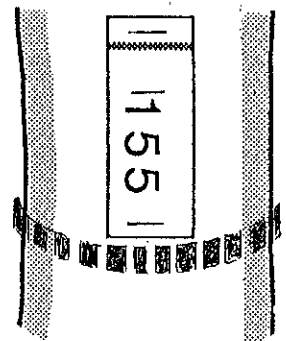
胸高以下で2つ以上に枝分かれしている場合は、すべて計測する。



胸高周囲が根周りやこぶ等で計測できない場合は、測定位置を変更する。



傾いた木は傾斜の内側地際より測高する。



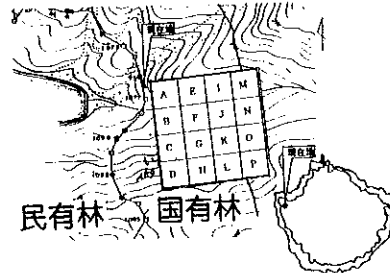
ナンバーテープは3カ所止しテープのすぐ下を測定する。

永久プロット設定区域

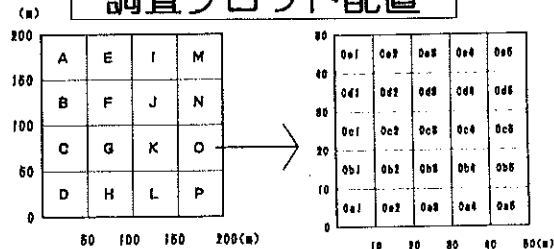
設定箇所概要

- 1 設定箇所 平瀬国有林2い林小班
(森林生態系保護地域)
北緯 30度22分 東経130度24分
- 2 設定面積 4.00ha
(10m×10mのブロック400個)
- 3 設定者 林野庁
屋久島森林環境保全センター
- 4 設定年度 平成7年度 (1995年度)
- 5 目的 暖帯性下位の森林構造の変化を
モニタリングするために設定し、
森林生態系の保護に資することを
目的としています。
- 6 調査項目 (1) 樹木の位置図
(2) 樹種
(3) 胸高周囲

位置図



調査プロット配置

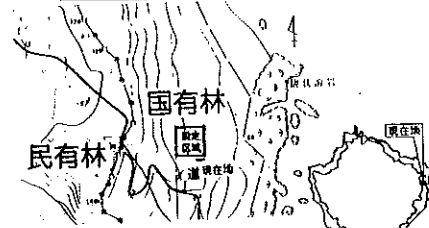


永久プロット設定区域

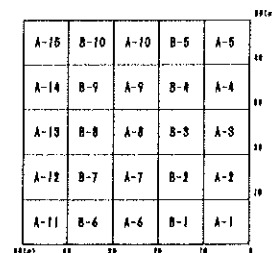
設定箇所概要

- 1 設定箇所 鍋山国有林111り林小班
(田代ヶ浜風景林)
北緯 30度22分 東経 130度40分
- 2 設置面積 0.25ha
(10m×10mのブロック25個)
- 3 設定者 林野庁
屋久島森林環境保全センター
- 4 設定年度 平成7年度 (1995年度)
- 5 目的 海岸低地林帯の森林構造の変化
をモニタリングするために設定
し、森林生態系の保護に資する
ことを目的としています。
- 6 調査項目 (1) 樹木の位置図
(2) 樹種
(3) 胸高周囲

位置図



調査プロット配置



別紙5

1 林内概要

当プロットは鍋山国有林1117林小班内に所在する。

林齢は78年生であるが、薪炭材として伐採された形跡もあり、現在の林分を構成している樹種は30年前後の若齢級とみられる。

2 樹種構成

樹種は25種、立木密度は507本/0.25ha (ha/2, 028本) 平均周囲38.4cm (胸高直径12cm) である。

立木本数はフカノキが一番多く138本/0.25haで、モクタチバナ119本/0.25ha、ハゼノキ56本/0.25haとつづく。

また、モクタチバナ、ヤマモモの株立ちとフカノキの双生木が目立つ。

樹種別集計は以下のとおりである。

モニタリングプロット樹種別集計表 (小プロット)

番号	樹種	本数	平均周囲 (cm)	番号	樹種	本数	平均周囲 (cm)
1	フカノキ	138	45.8	16	イヌビワ	4	25.3
2	モクタチバナ	119	32.9	17	ハマビワ	3	20.8
3	ハゼノキ	56	53.1	18	タイミンタチバナ	3	19.7
4	タブノキ	38	65.1	19	ハマクサギ	2	36.3
5	ヤマモモ	38	51.1	20	エゴノキ	1	48.8
6	クロキ	27	32.7	21	クロマツ	1	47.2
7	ヤブニッケイ	16	44.6	22	コバンモチ	1	25.8
8	ヒメユズリハ	10	54.2	23	シャリンバイ	1	24.2
9	モチノキ	8	54.8	24	サンゴジュ	1	23.8
10	アカメガシワ	8	40.7	25	カンコノキ	1	20.8
11	マテバシイ	8	40.0				
12	クスノキ	7	75.3				
13	リンゴツバキ	7	22.7				
14	ネズミモチ	5	26.4				
15	ショウベンノキ	4	27.1	合計		507	38.4

別紙6

1 林内概要

当プロットは屋久島西部の世界自然遺産区域内にあり、平瀬国有林2い林小班内のの標高150m~300mの箇所に位置する。

林齢は、153年生で屋久島の代表的な照葉樹林帯である。

2 樹種構成

樹種は56種、立木密度は7,371本/4ha (ha/1, 843本) 平均周囲65.0cm(胸高直径20.4cm)である。

立木本数はモクダチバナが一番多く1,285本/4haで、次にフカノキ、639本/4haサカキ619本/haの順位でつづいている

樹種別集計は以下のとおりである。

モニタリングプロット樹種別集計表 (大プロット)

番号	樹種	本数	平均周囲 (cm)	備考	番号	樹種	本数	平均周囲 (cm)	備考
1	モクダチバナ	1285	38.8		31	アヲネリ	11	45.5	
2	フカノキ	639	63.1		32	シマイセンリョウ	10	18.1	
3	サカキ	619	35.1		33	ハマセンダン	10	121.0	
4	リンゴツバキ	590	38.4		34	ヤマモガシ	10	81.1	
5	イヌナ	509	81.6		35	サンゴジュ	9	30.3	
6	サザンカ	477	33.0		36	ツゲモ	9	70.9	
7	タイミンダチバナ	458	32.3		37	アカモガシ	8	49.5	
8	ハリアリナ	442	67.3		38	ヤマヒリ	8	36.1	
9	マテバシ	405	40.9		39	カラスサンショウ	7	78.6	
10	サクラツツ	340	32.8		40	シヤンボ	7	49.8	
11	イヌガシ	306	55.2		41	トキワキ	7	32.1	
12	ヒサキ	271	27.7		42	ヤマモ	7	126.5	
13	ウラジロガシ	231	79.7		43	クロキ	6	28.7	
14	クロハ	125	59.1		44	ハマクサ	5	44.3	
15	ホソバタ	90	48.5		45	ホトノ	5	81.6	
16	イヌヒリ	88	34.2		46	アコウ	4	414.4	
17	タフノ	72	64.9		47	イナリ	4	72.5	
18	アデク	49	34.6		48	モリ	4	74.7	
19	エノ	40	63.3		49	オムラサキ	3	22.3	
20	ヤクシマサルハ	27	66.9		50	クノミツキ	2	98.0	
21	モッコク	24	40.5		51	ハセノ	2	98.8	
22	ヤクシマオカガエ	22	83.2		52	ヤマザクラ	2	60.7	
23	ヒメツリハ	19	66.3		53	リュウキュウモ	2	20.0	
24	リュウキュウマカキ	16	77.8		54	センダン	1	61.2	
25	クマガネ	14	43.9		55	ハリナ	1	202.6	
26	ナギ	14	28.5		56	ヒメヤラ	1	38.9	
27	ミスバ	14	22.8						
28	アヲニツ	14	69.6						
29	コハノ	13	71.3						
30	スダジ	13	80.2						
					合計		7371	65.0	

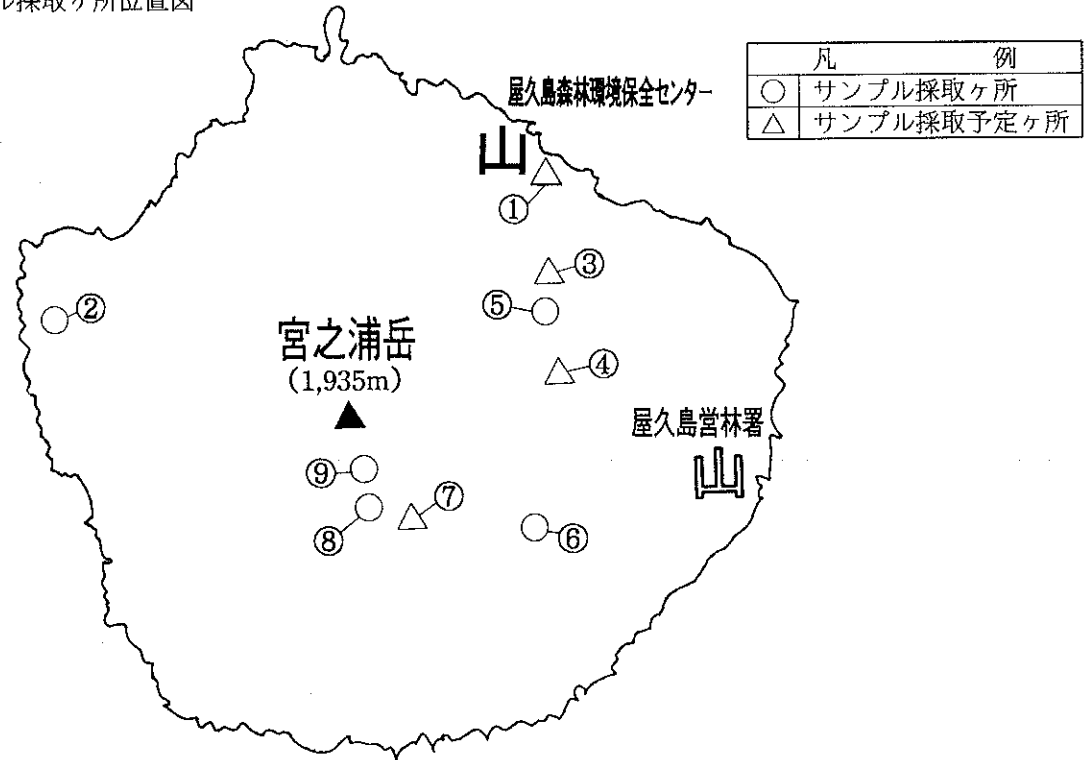
(2) 屋久島国有林における水質調査

1 目的

屋久島の森林の生態に深く関係する水質について、調査を行い土质地質との関わり等についての基礎資料とする。

2 サンプル採取ヶ所

サンプル採取ヶ所位置図



番号	採取予定ヶ所 (林小班等)	項目	標高	採取ヶ所 選定理由	備考	サンプル採取年月日
①	森林環境保全センター (敷地内)	雨水	20m	雨量計設置箇所		
②	平瀬国有林 (2い)	流水	200m	大プロット設定箇所	森林生態系保護地域・世界遺産登録地域 国立公園第1種特別地域	H. 8. 3. 5
③	白谷雲水峡入口 (216ろ)	雨水	560m	雨量計設定箇所		
④	小杉谷事業所跡 (101イ)	雨水	680m	雨量計設置箇所	国立公園第3種特別地域	
⑤	白谷雲水峡 (213い)	流水	700m	水源の森 プロット予定地	森林生態系保護地域 自然休養林	H. 8. 3. 11
⑥	ヤクスギランド (80い)	流水	1,000m		森林生態系保護地域 自然休養林	H. 8. 3. 8
⑦	淀川登山口 (62い)	雨水	1,380m	雨量計設定箇所	森林生態系保護地域 国立公園第3種特別地域	
⑧	小花之江河 (82ろ)	流水	1,630m	高層視原	森林生態系保護地域・世界遺産登録地域 国立公園特別保護地区	H. 8. 2. 27
⑨	花之江河 (22ろ)	流水	1,630m	高層視原 プロット予定地	森林生態系保護地域・世界遺産登録地域 国立公園特別保護地区	H. 8. 2. 27

※ 平成7年度は上記の7箇所について、採取し第1回目を平成8年3月11日付けで森林総合研究所九州支所・土壌研究室宛宛発送し、データ分析については、森林総合研究所九州支所で実施するものとする。

3 ヤクシマシャクナゲの保護増殖事業

1 目的

ヤクシマシャクナゲは、ツツジ科の屋久島固有変種であり、屋久島の森林植生の一つの指標であるとともに、森林観賞における目玉となっている一方、観賞植物としての価値が高ことから盗掘がたえず、人目につき易い箇所では被害にあっているのが現状である。

世界自然遺産登録などによる観光客や、登山客の増加に伴い、今後更に盗掘等による被害が拡大するおそれがある。

したがって、屋久島国有林においてヤクシマシャクナゲの保護増殖を実施し、盗掘箇所等への植栽を行い、森林生態系の修復と自然休養林等保健休養機能の維持増進を図ることとする。

2 事業実施体制

屋久島森林環境保全センターとアムウェイネイチャーセンターの助成を受けた屋久島環境文化財団が共同事業として実施する。

3 共同事業における事業内容と役割分担

屋久島森林環境保全センター	屋久島環境文化財団
事業地の提供	事業の実行（臨時雇用を予定）
事業計画の策定（財団と共同で実施）	経費の支出
事業実施における指揮、監督	事業計画の策定（保全センターと共同で実施）
増殖事業に係る調査、試験の取りまとめ	増殖後の植栽に係るボランティアの募集
必要に応じた経費の支出	
増殖後の植生復元のための植栽箇所の選定	

4 事業実施箇所

気象条件、標高、ヤクシマシャクナゲの実生の分布、資材運搬条件等を考慮して、耳岳国有林62林班内の安房林道60支線沿線（標高1,300m）とする。

5 具体的な保護増殖の進め方

原則として、現地で採取した種子を育苗箱に播種、これをポット苗化し露地管理し保護増殖を実施する。五カ年計画で、1,000株程度の増殖を目的とする。

なお、実施要領については次のとおりとする。

(1) 種子の採取

ア 採種年月日 平成7年10月20日

イ 採種箇所 黒味国有林22口、太忠岳国有林83は、宮之浦岳国有林93ほへ、94イ林小班の歩道沿い（別紙採種箇所位置図のとおり）

(2) 施設について

ア 事業実施箇所 耳岳国有林62林班（別紙事業実施箇所位置図のとおり）

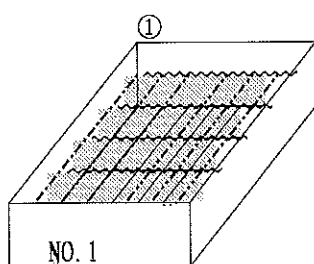
イ 育苗舎は作成せず育苗箱に播種した後、表面を水苔で覆い雨を防ぐ

ウ 日除け対策として、寒冷紗を使用する。

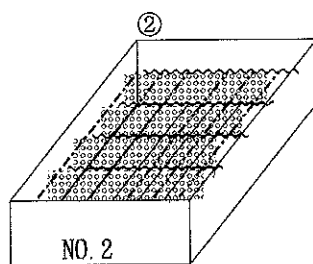
(3) 播種の方法

ア 第一回目の播種について（平成7年11月22日）

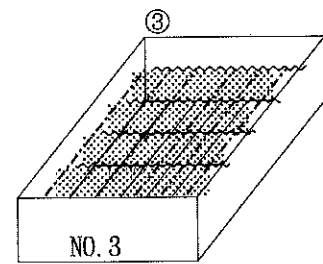
この日の播種は、10個の育苗箱に播き番号を付け下図の4種類の方法で実施した。



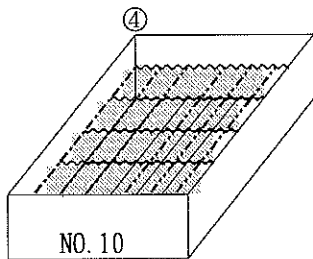
川砂に播いたもの



川砂+鹿沼土に播いたもの



水苔に直接播いたもの

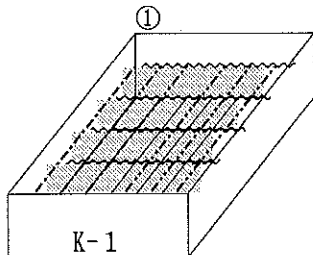


水苔に砂を混ぜて播いたもの

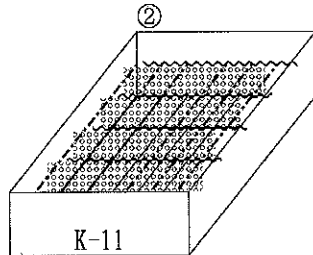
番号	種子採種場所	播種床の種類	備考
1	黒味岳	①	全てのものに、水苔を細かくしたものを混合した。
2	花之江河	①	
3	〃	①	
4	〃	①	
5	黒味岳	①	
6	花之江河	②	
7	黒味岳	①	
8	〃	①	
9	〃	③	
10	〃	④	

イ 第2回目の播種について(平成8年3月27・28日)
今回は、鹿沼土、山砂、水苔を基本として下図のとおり行った。

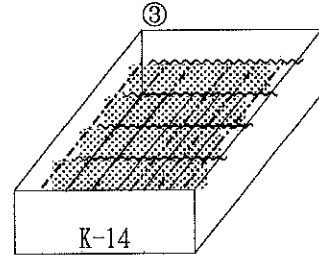
(ア) 鹿沼土



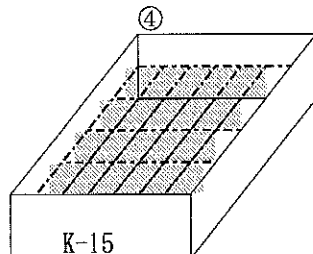
鹿沼土に細かい山砂を混ぜ水苔で覆ったもの



鹿沼土に普通の山砂を混ぜ水苔で覆ったもの



鹿沼土に普通の山砂とバーミキュライトを混ぜ水苔で覆ったもの

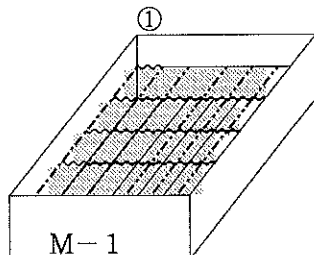


鹿沼土に普通の山砂を混ぜ水苔を覆わないもの

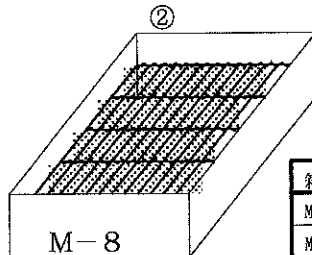
箱番号	苗床の状態	採種箇所	箱番号	苗床の状態	採種箇所
K-1	①	花之江河	K-11	②	黒味
K-2	①	〃	K-12	②	〃
K-3	①	〃	K-13	②	花之江河
K-4	①	〃	K-14	③	〃
K-5	①	〃	K-15	④	黒味
K-6	①	〃	K-16	②	オキナ647
K-7	①	〃	K-17	②	ナゲシ641
K-8	①	〃	K-18	③	黒味
K-9	①	黒味	K-19	②	黒味(赤)
K-10	①	〃	K-20	④	花之江河

※鹿沼土はKと育苗箱に表示し20箱設置する。
苗床の状態は①～④の4種類とする。

(イ) 水苔



水苔に細かい砂を混ぜる

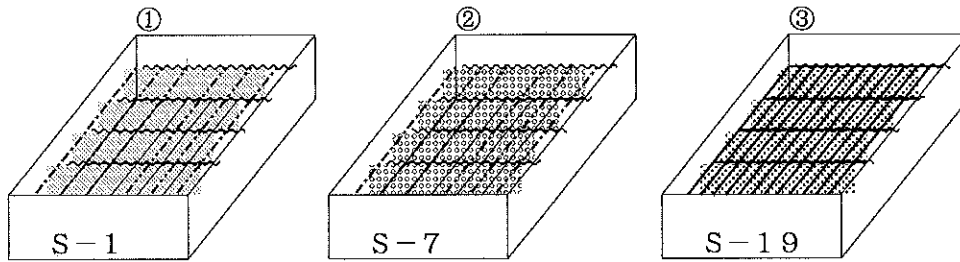


水苔のみ

箱番号	苗床の状態	採種箇所	箱番号	苗床の状態	採種箇所
M-1	①	花之江河	M-11	②	オキナ646
M-2	①	オキナ650	M-12	②	オキナ647
M-3	欠番		M-13	②	オキナ650
M-4	①	オキナ647	M-14	②	黒味(赤)
M-5	①	黒味	M-15	②	花之江河
M-6	①	オキナ646	M-16	②	〃
M-7	②	黒味(赤)	M-17	②	黒味
M-8	②	花之江河	M-18	②	〃
M-9	②	〃	M-19	②	〃
M-10	②	黒味	M-20	②	花之江河

※水苔は、育苗箱にMと表示し19箱設置する。
苗床の状態は、①と②の2種類とする。

(ウ) 山砂



細かい山砂に水苔を覆ったもの

普通の山砂に水苔を覆ったもの

普通の山砂のみ

箱番号	苗床の状態	採種箇所	箱番号	苗床の状態	採種箇所
S-1	①	ナグシ641	S-11	②	オキナ646
S-2	①	オキナ647	S-12	②	オキナ647
S-3	①	黒味(赤)	S-13	②	オキナ650
S-4	①	オキナ650	S-14	②	黒味(赤)
S-5	①	オキナ646	S-15	②	花之江河
S-6	①	オキナ647	S-16	②	〃
S-7	②	オキナ650	S-17	②	黒味
S-8	②	黒味(赤)	S-18	②	〃
S-9	②	オキナ650	S-19	③	〃
S-10	②	オキナ647	S-20	③	花之江河

※山砂は、育苗箱にSと表示し20箱設置する。
苗床に状態は、①～③の3種類とする。

6 平成7年度事業経過記録

年月日	事業実施内容	実施箇所	実施者氏名	備考
7.10.20	種子採取	88口、83は、93ほへ、94に	林友和、百田喜久郎、日高文隆(愛林)	
7.11.22	播種	62ち	林友和、日高文隆(愛林)	
8.1.22	点検	62ち	林友和	
8.3.22	小屋作設林道・現場整備	62ち	日高文隆(愛林)外3名	
8.3.23	〃	62ち	日高文隆(愛林)外3名	
8.3.25	現場整備	62ち	日高文隆(愛林)外1名	
8.3.27	播種	62ち	林友和、河本正人、日高文隆(愛林)	
8.3.28	〃	62ち	林友和、日高文隆(愛林)	
8.3.30	小屋周辺整備	62ち	日高文隆(愛林)	

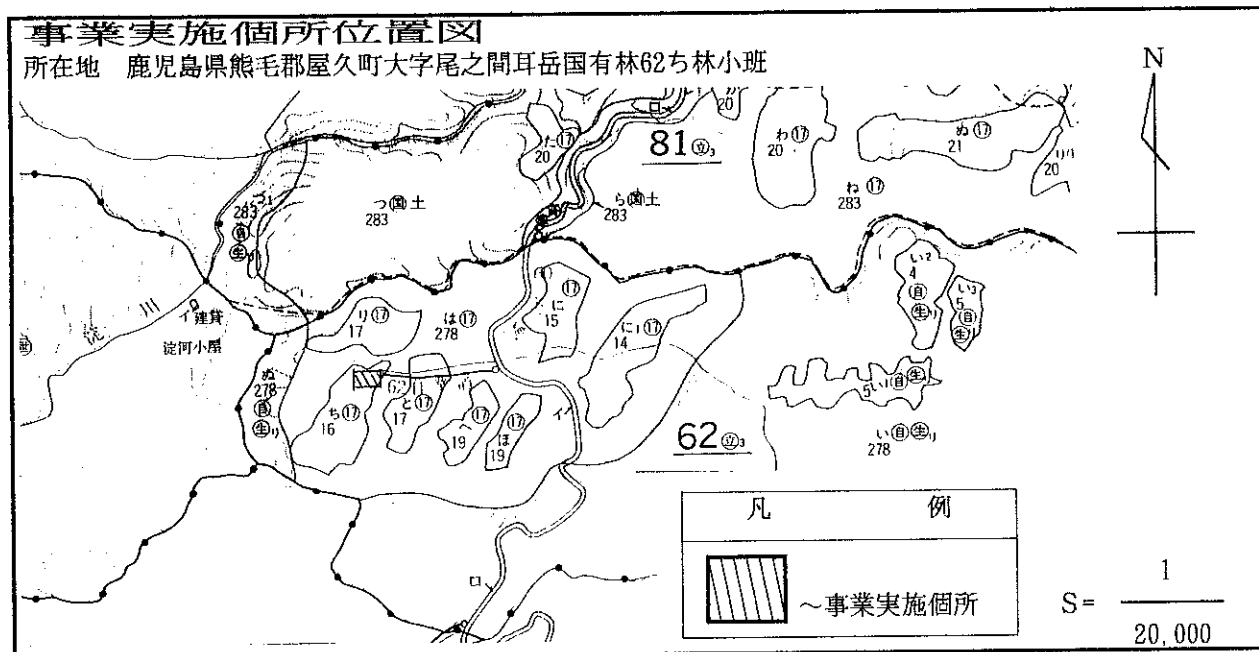
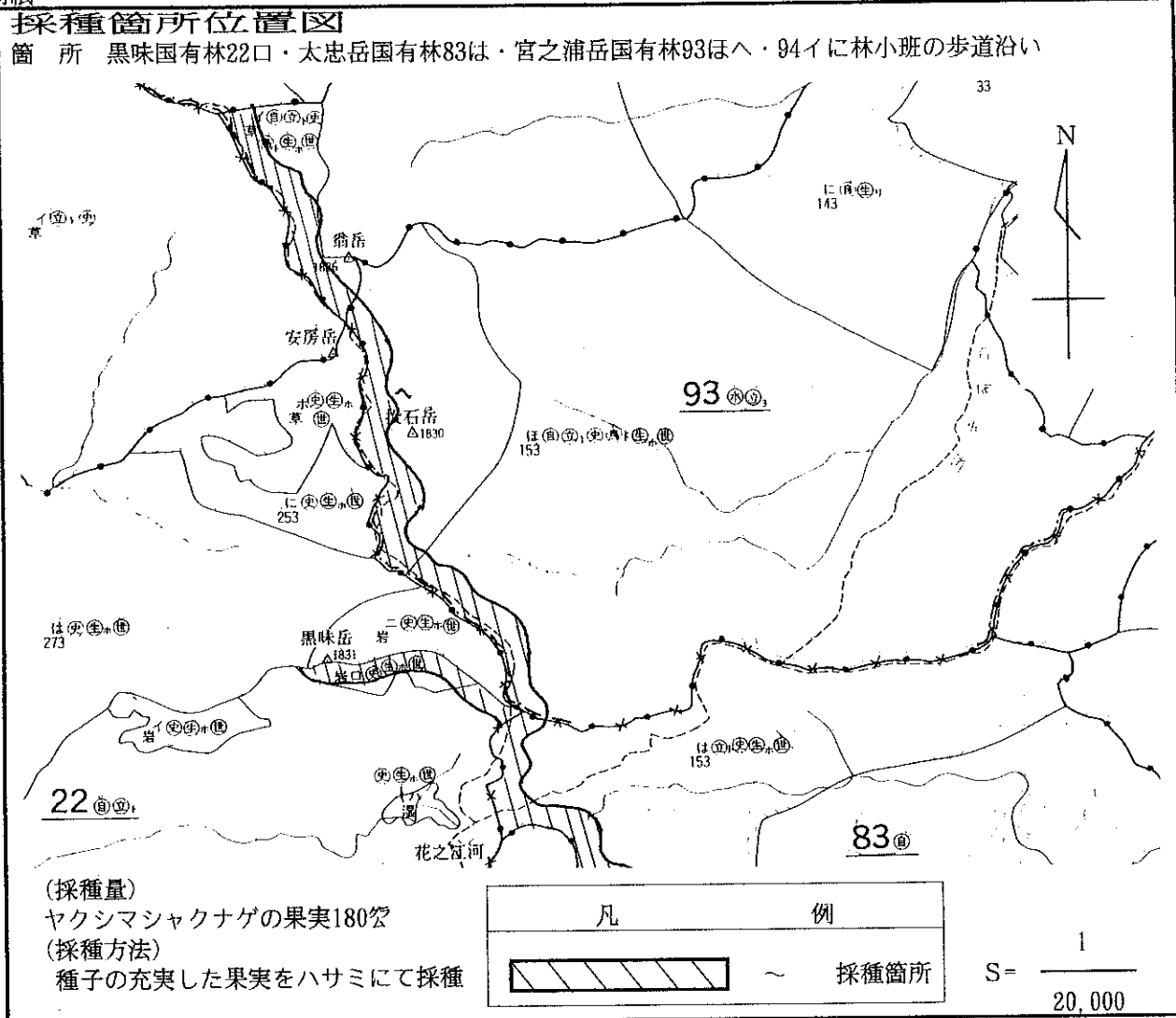
(参考)

屋久島では、すでに上屋久町が平成3年から屋久島総合自然公園事業の一環として、ヤクシマシャクナゲの育苗事業を実施している。

主に種子からの増殖を行っており、将来は販売も計画している。

また、屋久町では、平成7年にヤクシマシャクナゲを含む「シャクナゲの森」を造成・開園し一般の観賞に供している。

したがって、今回の保護増殖事業の実施については、地元自治体との連携を密にし、育苗担当者の交流等を深めると共に、必要に応じた種子や苗木の供給、保護増殖に係る基礎データの交換等を実施していくこととする。



4 農林水産省ジーンバンク事業

目的

本事業は、1985年から始まったもので、農林水産生物全般を対象として遺伝資源の増殖、保存等を行うとともに、遺伝資源及びその情報を大学、民間等へ提供するもので、屋久島森林環境保全センターでは著名ヤクスギ、ヤクタネゴヨウの遺伝資源保存・増殖について林木育種センター九州育種場と共同で実施している。

(1) ヤクタネゴヨウの遺伝資源収集及び増殖・保存

目的及び趣旨

この事業は、農林水産省ジーンバンク事業による希少樹種のヤクタネゴヨウの遺伝資源保存を目的とするものである。

収集予定箇所及び数量

収集予定箇所	採穂予定量	球果採取予定量	備考
平瀬国有林4林班	40個体×2本=80本	20個体×20個=400個	
破砂岳国有林48林班	70×2=140本	30×20=600	
ハサ岳国有林66林班	60×2=120本	30×20=600	
計	340本	1,600個	

収集方法

① 採穂

接ぎ木用穂木として枝先約30cmを高枝剪定鋏、鎌にて採取。

② 採種

種子成熟期に球果を高枝剪定鋏、鎌にて採取。

実施期間

採穂期間 平成7年1月20日～平成9年3月30日

採種期間 平成7年8月1日～平成9年9月20日

平成7年度実施結果

収集箇所	採穂量	球果採取量	収集期間
屋久島営林署構内		(1個体)65個=65個	H.7.9.4~6
破砂岳国有林48林班	30個体×5本=150本	(3個体)19個=19個	採穂 H8.2.21~22 採種H7.9.4~6
ハサ岳国有林66林班	8×5=40本		H8.2.21~22
計	190本	84個	

※ 球果・穂木の採取は、林木育種センター九州育種場の職員が来島し実施した。

その他

ヤクタネゴヨウについては、森林総合研究所が平成5年度より「森林生態系中の希少植物の遺伝的構造及び生育環境特性の解明と保全技術の開発」の一環として、屋久島営林所管内の交配母樹の調査、選定と人工交配及び交配球果の採取等を実施しており、九州大学等の研究機関でも調査・研究が行われている。

(2) 著名ヤクスギの遺伝資源収集

目的及び趣旨

この事業は、農林水産省ジーンバンク事業による天然生ヤクスギの著名木の遺伝資源保存を目的とするものである。

採取方法

ヤクスギの枝先約30cm程度を高枝剪定鋏又は小鎌で、切り取り採取する。

採取量

各個体とも、穂木10本づつ。ただし、各個体の健全度等を判断し、採取数量を減ずる等の措置を行うこととする。

実施期間

平成8年1月16日～平成9年3月31日

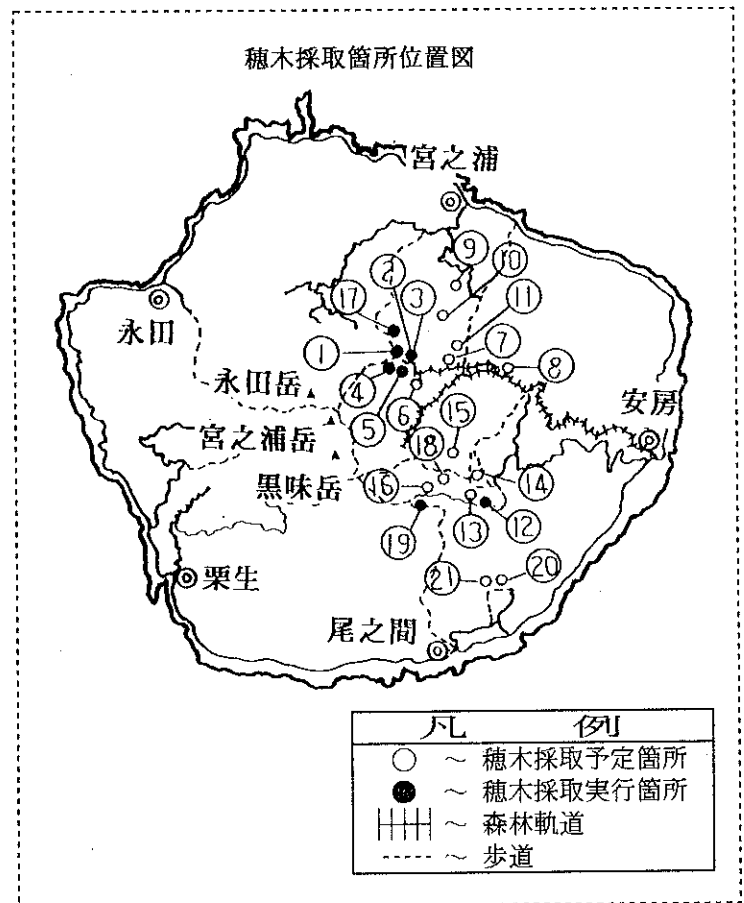
穂木採取予定一覧表及び位置図

番号	名称	番号	名称
1	縄文杉	12	仏陀杉
2	夫婦杉(夫)	13	岩戸杉
3	〃(婦)	14	蛇紋杉
4	大王杉	15	天柱杉
5	翁杉	16	紀元杉
6	仁王杉	17	太古杉
7	三代杉	18	大和杉
8	愛子杉	19	川上杉
9	弥生杉	20	万代杉
10	奉行杉	21	モッチョム太郎
11	七本杉		

平成7年度実行結果

穂木採取一覧表

番号	名称	採穂量	採穂年月日
1	縄文杉	10本	3.12
2	夫婦杉(夫)	10	3.12
3	〃(婦)	10	3.12
4	大王杉	10	3.12
5	翁杉	10	3.12
12	仏陀杉	10	3.13
17	太古杉	10	3.12
19	川上杉	10	3.13
計	8個体	80	



※今回の採穂については、林木育種センター九州育種場から2名来島し実施した。

その他

愛子杉、弥生杉、奉行杉、七本杉、岩戸杉、万代杉、モッチョム太郎の7個体については、平成8年度に実行の予定。

仁王杉、三代杉、蛇紋杉、天柱杉、紀元杉、大和杉については、枝下が高く今後の収集は難しいと考えられる。

Ⅱ 治 山

1 平成7年度治山事業一覧表

(1) コンクリート谷止工

NO	工 事 名	国 有 林 林 小 班	種 別	数 量	工 期	完 成 年 月 日	備 考
1	黒味国有林復旧治山新設工事(35)	黒 味 35ろ	復 旧 治 山	m3 317.0	7. 7. 3 ~7.12. 5	7 11.27	
2	宮之浦岳国有林復旧治山新設工事	宮之浦岳 217り	〃	446.0	7. 7. 3 ~7.12.25	7 11.28	
3	白川国有林復旧治山新設工事	白 川 249る	〃	802.0	7. 8. 2 ~8. 2.21	7 12.15	
4	石塚国有林復旧治山新設工事 (207)	石 塚 207へ	〃	291.9	7. 8. 2 ~7.12.28	7 11.28	
5	石塚国有林復旧治山新設工事 (206)	石 塚 206り	〃	241.5	7. 8.31 ~8. 2. 2	7 12.22	
6	太忠岳国有林復旧治山新設工事	太 忠 岳 78ち	〃	348.7	7.11.22 ~8. 3.22	8 3.18	
7	白川国有林復旧治山新設工事 (250)	白 川 250ぬ	〃	625.6	7.12. 8 ~8. 3.22	8 3.19	
	計			3,072.7			

(2) 山腹工

NO	工 事 名	国 有 林 林 小 班	種 別	数 量	工 期	完 成 年 月 日	備 考
1	黒味国有林復旧治山工事(28)	黒 味 28か	復 旧 治 山	ha 0.21	7. 8. 2 ~7.12.28	7 12. 7	
2	平瀬国有林復旧治山新設工事	平 瀬 11ぬ	〃	0.05	8. 1.24 ~8. 3.22	8 3.18	
3	紅葉岳国有林復旧治山新設工事	紅 葉 岳 244わ	〃	0.05	8. 1.26 ~8. 3.22	8 3.19	
	計			0.31			

(3) 吊橋の設置

NO	工 事 名	国 有 林 林 小 班	種 別	数 量	工 期	完 成 年 月 日	備 考
1	屋久島地区重要自然維持地域保安 林整備事業(白谷)	宮之浦岳 215外	重 要 自 然	m 38	7. 8. 2 ~8. 3.13	8 3.13	さつき吊橋

(4) 管理歩道の作設

NO	工 事 名	国 有 林 林 小 班	種 別	数 量	工 期	完 成 年 月 日	備 考
1	屋久島地区重要自然維持地域保安 林整備事業(白谷Ⅱ)	宮之浦岳 214外	重 要 自 然	m 3,032.6	7.12.25 ~8. 3.25	8 3.21	白谷雲水峡

(5) 管理歩道 展望台の設置

NO	工 事 名	国 有 林 林 小 班	種 別	数 量	工 期	完 成 年 月 日	備 考
1	屋久島地区重要自然維持地域保安林整備事業(荒川)	宮之浦岳 99ほ	重 要 自 然	1基	7.10.31 ~8.3.22	8 2.26	縄文杉

(6) その他

NO	工 事 名	国 有 林 林 小 班	種 別	数 量	工 期	完 成 年 月 日	備 考
1	愛子岳国有林保安林改良事業(除伐)工事	愛子岳 203れ外	保安林 改 良	ha 11.20	7.9.11 ~7.12.4	7 12.4	
2	愛子岳国有林保安林改良事業(除伐)工事	愛子岳 203ぬ外	〃	12.16	8.1.22 ~8.3.22	8 3.22	
3	七五岳国有林保安林改良事業(本数整理伐)工事	七五岳 40と外	〃	14.36	8.1.22 ~8.3.22	8 3.18	
4	石塚国有林保安林改良事業(本数整理伐)工事	石 塚 101は	〃	6.97	8.1.22 ~8.3.22	8 3.21	
5	愛子岳国有林保安林改良事業(本数整理伐)工事	愛子岳 203つ ³ 外	〃	8.48	8.2.15 ~8.3.22	8 3.22	
6	七五岳国有林保安林改良事業(本数整理伐)工事	七五岳 40に外	〃	8.15	8.2.15 ~8.3.22	8 3.18	
	計			61.32			

2 屋久島における気象観測施設の配置

目的及び趣旨

屋久島国有林は、世界遺産に登録されるなど、森林生態系として極めて貴重な森林が多いとともに、国有林が島の約8割をしめていること等から国土保全機能としても重要な位置付けとなっている。

また、年間4,000～8,000mmに達する降雨があること、花崗岩特有の表層の浅い地域が多いこと等から山腹崩壊や土砂流失等の山地災害も多く発生している。

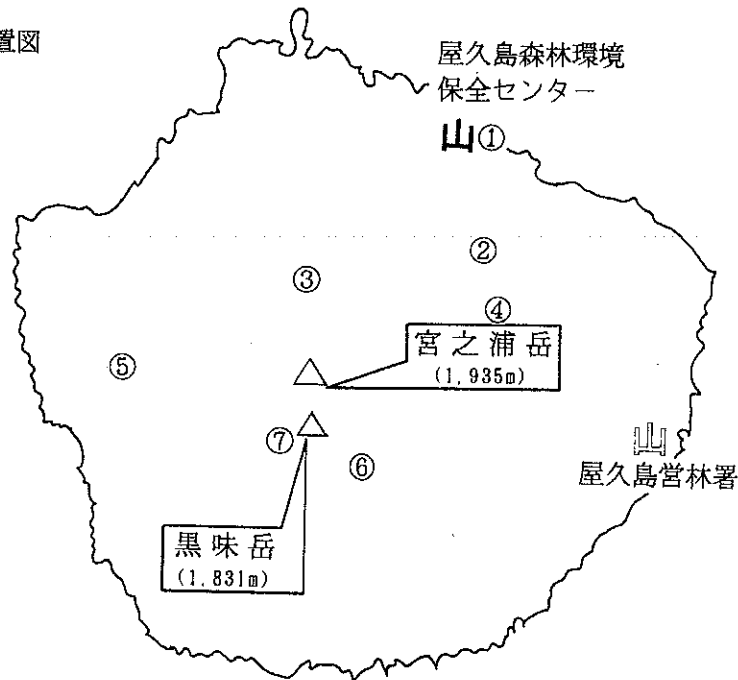
このため、国有林の要所において雨量等の森林気象を観測し、永続的なデータを保存することにより、貴重な森林の保全と山地災害防止に資することとする。

管 理

データ回収は、屋久島森林環境保全センターで二ヶ月に一回程度行うこととし、データの記録管理についても実施する。

気象観測機設置箇所

雨量計設置箇所位置図



番号	設置箇所	林小班	標高	備 考
①	屋久島森林環境保全センター	敷地内	20m	
②	白谷雲水峡入口	216ろ	560m	
③	宮之浦林道33支線	33ふ	500m	
④	小杉谷事業所跡	101イ	680m	国立公園第3種特別地域
⑤	大川林道12支線	9る	1,020m	
⑥	淀川登山口	62い	1,380m	世界遺産登録地域・森林生態系バッファゾーン 国立公園第3種特別地域
⑦	黒味岳頂上付近	22二	1,800m	世界遺産登録地域・森林生態系コアゾーン 国立公園特別保護区

※④～⑦については、冬期の降雪雨量として測定するために、融雪器を設置した。

Ⅲ 普及教育・森林空間利用

1 森林教室の実施

項目	上屋久町ふるさと森林教室	実施年月日	平成7年5月27日(土)
場所	白谷雲水峡～白谷山荘		
ねらい	① 郷土の自然についての理解を深め、郷土を愛し、自然を守り育てる態度を養うとともに自然の有効な活用の仕方について理解を深める。 ② 散策活動、団体行動をとおして体力・忍耐力を養い、連帯感を育てるとともに、公衆道徳を身につけさせる。		
依頼者等	上屋久町教育委員会		
対象者	上屋久町の小学5年生	46名	
引率者	上屋久町教育委員会職員	12名	
講師	屋久島森林環境保全センター職員	7名	
実施内容	8:45～9:00(出発式) 1 調整官あいさつ (5分) 2 講師のグループ担当紹介 (10分) (1) 永田小 小島 下崎 (2) 一湊小 迫田 (3) 小瀬田小 木村 (4) 宮浦小一班 大寺 (5) 宮浦小二班 下池 9:50～14:20(現地説明) 1 諸注意 所長 (10分) 2 講話「森林の働き」 木村森林官 (20分) 3 現地説明(森林教室行程) 10:20～14:20 白谷広場→二代大杉→三本足杉→三本檜杉→奉行杉→二代くぐり杉→くぐり杉→ →白谷山荘(昼食・12:50～13:00まで質問コーナー)→白谷山荘発→くぐり杉→試験地→ →シャラの大杉→飛流橋→さつき吊橋前→弥生杉→白谷広場(14:20着)		
実施結果	・白谷雲水峡のパンフを作成、生徒全員に配布、パンフにより現地説明を行う。 ・地元の小学生であったが、白谷雲水峡は初めての者が多くとても好評であった。 ・予定どおりに全員無事下山、記念にボールペンを配布した。		

項目	屋久島高校縄文杉登山事前学習	実施年月日	平成7年6月12日(月)
場所	屋久島高校武道館		
ねらい	世界自然遺産に登録された屋久島の大自然と、その郷土に対する理解を深めてもらうために平成7年7月12日から14日に実施される屋久島高校学校登山に伴う事前学習会。		
依頼者等	屋久島高校		
引率者			
対象者	屋久島高校2年生	97名	
講師	小島調整官・大寺専門官		
実施内容	屋久島の国有林・縄文杉登山についての心構えなどの説明を、ホームルームの時間(8:45～9:20)を利用して行った。		
実施結果	屋久島の概要、縄文杉登山のしおり、屋久島国有林図を参考に調整官が説明、地元の高校生であったが縄文杉登山は初めての者が多く、登山の心構えについてはよく聞いていた。		

項目	郷土の自然に挑むアドベンチャーの旅	実施年月日	平成7年7月26日(水)
場所	縄文杉周辺		
ねらい	登山・野営など自然体験学習をとおして、児童・生徒の心身を鍛錬し豊かな情操を養うなど思いやりのあるたくましい青少年の育成を図るものである。		
依頼者等	鹿児島県立青少年研修センター		
引率者			
対象者	鹿児島県内の小学5年生から高校生までの生徒	110名	
講師	小島調整官・迫田所長		
実施内容	保全センター作成のアドベンチャーの旅ハンドブックを生徒全員に配布、縄文杉をバックに世界自然遺産・屋久島の自然の特徴・縄文杉・自然保護等について調整官、所長が説明。		
実施結果	縄文杉の関心は高く、縄文杉の名前の由来、縄文杉の根の長さ等数多くの質問が出された。		

別紙6

項 目	京都府立北桑田高校森林科屋久島学習	実施年月日	平成7年8月10(日)～11日(月)
場 所	10日(保全センター会議室) 11日(淀川登山道～黒味岳～淀川登山道～紀元杉)		
ね ら い	屋久島の国有林及び自然についての理解を深める。		
依頼者等	京都府立北桑田高校森林科		
引 率 者	京都府立北桑田高校教員	2名	
対 象 者	京都府立北桑田高校森林科2年生	16名	
講 師	迫田所長・下崎庶務主任官		
実 施 内 容	10日 保全センター会議室でビデオ等により屋久島の概要説明及び黒味岳登山について説明 11日 黒味岳登山		
実 施 結 果	登山をしながら屋久島の植生について説明、大自然のすばらしさに感動していた。		

項 目	太忠岳探勝登山	実施年月日	平成7年9月10(日)
場 所	ヤクスギランド～太忠岳		
ね ら い	天柱石のそびえる太忠岳まで、屋久杉の原生林の中を植物や昆虫を観察しながら、森林浴と風景を楽しむとともに、昔から屋久島に伝わる岳参りの文化に触れ自然を愛する心を養う。		
依頼者等	環境庁・上屋久町・屋久町		
引 率 者	環境庁・上屋久町・屋久町職員	6名	
対 象 者	上屋久町・屋久町地域住民で参加を希望したもの	54名	
講 師	保全センター(百田専門官、大寺専門官、下崎庶務主任官)		
実 施 内 容	講師から、森林の構成や、植物、昆虫等の話を聞きながら、ゆっくりと森林浴と風景を楽しみ、太忠岳を目指す。		
実 施 結 果	今回の登山は、環境庁、上屋久町、屋久町共催で開催されたが、幼児をつれてきた人がいたので参加を断った。また、参加案内には、年齢制限、登山コースの時間割等本格的な登山であるとの配慮が少なかったように思われる。 なお、下山地点まであと200mのところでは動けなくなった人がいたので担架で運んだ。体力の消耗による両足の痙攣であると思われる。		

項 目	東洋工学専門学校建築工学科2年屋久島実習	実施年月日	平成7年10月5日(木) 6日(金) 17日(火) 18日(水)
場 所	保全センター・白谷雲水峡		
ね ら い	屋久島の自然環境と人間の利用について学習		
依頼者等	東洋工学専門学校建築工学科		
引 率 者	東洋工学専門学校建築工学科講師	5日3名・6日2名・17日2名・18日2名	
対 象 者	東洋工学専門学校建築工学科2年生	5日18名・6日17名・17日17名・18日17名	
講 師	小島調整官、迫田所長、大寺、林、百田各専門官		
実 施 内 容	9:00～10:00までセンター会議室で屋久島の国有林、航空写真の見方などの事前学習。 10:30から白谷雲水峡内で、屋久島の植物・雲水峡の利用のあり方等について学習		
実 施 結 果	実習生は全国出身で屋久島と内地との林相の違い、屋久杉の生命力、雲水峡内の整備等について深い関心を示していた。		

2 森林空間利用（森林環境整備推進協力金）

（1）白谷雲水峡森林環境整備推進協力金の導入

目的及び趣旨

この事業は、増大する国民のレクリエーション利用に対応し、国民の協力を得て、国民のレクリエーションの森の森林及び利用施設の整備及び環境美化等を行い、もってレクリエーションの森の良好な保全と利用者の快適な利用を促進することを目的に、平成8年4月1日の導入に向けて実施していくものとする。

事業の内容

この事業は、屋久島自然休養林白谷地区（通称白谷雲水峡＝以下「白谷雲水峡」という。）の利用者に快適な森林レクリエーションの場を供給するため白谷雲水峡の整備等に要する経費の一部について、白谷雲水峡の利用者の協力を求める（利用者から自主的に拠出される資金＝以下「森林環境整備推進協力金」という。）ことにより、白谷雲水峡の整備を進めるものとする。

森林環境整備推進協力金

利用者から拠出された森林環境整備推進協力金は、すべて国庫に収納されることになるが、その金額に相当する金額を白谷雲水峡の整備等に要する経費に充てることを基本とする。

森林環境整備推進協力金の受領業務等

- ① 金 額 高校生以上 1人 300円（利用者の任意拠出とする。）
- ② 受領方法 屋久島営林署長が「大自然緑の会」と委託契約を締結し、「大自然緑の会」が受領する。
受領された「協力金」は、一ヶ月分を取りまとめて国の納入告知書により国庫へ納付する。

「大自然緑の会」について

- ① 会の構成等 上屋久町、屋久町、上屋久町観光協会、上屋久町商工会、屋久島交通、屋久島交通タクシー、まつばんだ交通、安房タクシー、上屋久町旅館組合屋久島民宿ペンション協会代表等の他、本会の主旨に賛同する団体をもって組織する。
- ② 業務内容 主として協力金受領業務を行う外、毎年度締結する屋久島営林署長との委託契約において定められた業務を行う。
例えば、白谷雲水峡の自然保護・白谷雲水峡の清掃及び環境美化啓発・駐車場の整理・その他本事業の実施に付帯する業務。
- ③ 会の運営 屋久島営林署長との委託契約に基づいて支払われる委託契約金を主たる運営費とする。
運営費の支出は、総会、理事会等の決定に基づいて使用させることになるが、事業の目的以外に使用する事はできない。

平成7年度実施内容

実施時期及び期間	実施項目	備 考
H8.3.11	会の名称が「大自然緑の会」に決定。	会の名称を上屋久町の小中学生に募集、応募総数220件の中から決定。
H8.3.18	「大自然緑の会」を設立。	屋久島離島開発総合センター
H8.2.1~3.25	管理棟（協力金受領所）作設	平成8年3月27日完成検査
H8.3.28	白谷雲水峡案内板設置	大15基 小20基

その他

平成8年4月1日から「大自然緑の会」と委託契約により森林環境整備協力金制度を導入。
大自然緑の会会則については、別紙1のとおり。

大自然緑の会会則

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、大自然緑の会と称する。

(会の目的)

第2条 本会は、屋久島自然休養林白谷地区（通称白谷雲水峡）の自然を保護し、森林及び利用施設の整備、環境美化等に寄与することを目的とする。

(会の事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 協力金の受領及び整理
- (2) 白谷雲水峡の自然保護
- (3) 白谷雲水峡の清掃及び環境美化啓発
- (4) 駐車場の整理
- (5) その他本事業の実施に付帯する業務

(事務所の所在)

第4条 本会の事務所は、会長所在地内に置く。

第2章 会 員

(会の組織)

第5条 本会は、上屋久町、屋久町、上屋久町観光協会、上屋久町商工会、屋久島交通、屋久島交通タクシー、まつばんだ交通、安房タクシー、上屋久町旅館組合屋久島民宿ペンション協会代表等の他、本会の主旨に賛同する団体をもって組織する。

第3章 役職員

(会の役員)

第6条 本会に次の役員をおく。

- | | |
|-----------|----|
| (1) 会 長 | 1名 |
| (2) 副 会 長 | 1名 |
| (3) 理 事 | 2名 |
| (4) 監 事 | 2名 |

(役員を選任)

第7条 本会の会長は、屋久島自然休養林白谷地区保護管理協議会会長を充てる。

- 2 会長以外の役員は総会で選任する。
- 3 監事は、本会の会務を監査する。

(役員の任務)

第8条 会長は、本会を代表するとともに会務を総括し、総会及び理事会を召集する。

副会長は、会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。

(役員任期)

第9条 本会の役員任期は2年とし、再選を妨げない。

但し、中途において就任した役員任期は次期改選までとする。

(役員報酬)

第10条 本会の役員は、総て無報酬とする。

(職員及び任務)

第11条 本会に次の職員を置く。

- (1) 事務局長 1名
- (2) その他職員 若干名

2 事務局長及びその他の職員は、会長の指揮を受け会務に従事する。

(職員の賃金等)

第12条 職員の賃金その他の労働条件については、別途定めるところによる。

第4章 会 議

(会議の種類)

第13条 会議は、総会と理事会とする。

(総会)

第14条 総会は、通常総会と臨時総会の2種とする。通常総会は、年1回これを開く。臨時総会は、会長が必要と認めるとき、または会員の中から3分の2の同意を得て理由を明示し、会長に請求があったときこれを開く。

2 総会に付議する事項は次のとおりとする。

- (1) 事業計画並びに収支予算に関する事項
- (2) 前年度の事業計画並びに収支予算に関する事項
- (3) 会則の改廃に関する事項

(理事会)

第15条 理事会は、会長、副会長、理事をもって組織する。

2 理事会は必要の都度これを開き、会務の運営並びに本会の目的達成に必要な事業計画を実施するとともに、次の事項を審議する。

- (1) 総会に付議する事項
- (2) 総会の権限中理事会に委任された事項

3 監事は理事会に出席し意見を述べることができる。

(会議の成立)

第16条 総会は、会員の半数以上（委任状も出席とみなす）、理事会は理事総数の半数以上の出席を以て成立し、議事は出席者の過半数を以て決定する。可否同数の場合は議長の決するところによる。

(議長)

第17条 総会及び理事会は、会長が議長となる。

第5章 会 計

(会計年度)

第18条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(経費)

第19条 本会の経費は、委託金、補助金及び寄付金等を以て充てる。

(その他)

第20条 本会則にない事項については、総会において競技するものとする。

附 則

この会則は平成8年3月18日から施行する。

(2) ヤクスギランド森林環境整備推進協力金の実施

目的及び趣旨

この事業は、増大する国民のレクリエーション利用に対応し、国民の協力を得て、国民のレクリエーションの森の森林及び利用施設の整備及び環境美化等を行い、もってレクリエーションの森の良好な保全と利用者の快適な利用を促進することを目的に、平成5年4月1日より導入しているものである。

事業の内容

この事業は、屋久島自然休養林荒川地区（通称ヤクスギランド＝以下「ヤクスギランド」という。）の利用者に快適な森林レクリエーションの場を供給するためヤクスギランドの整備等に要する経費の一部について、ヤクスギランドの利用者の協力を求める（利用者から自主的に拠出される資金＝以下「森林環境整備推進協力金」という。）ことにより、ヤクスギランドの整備等を進めるものとする。

森林環境整備推進協力金

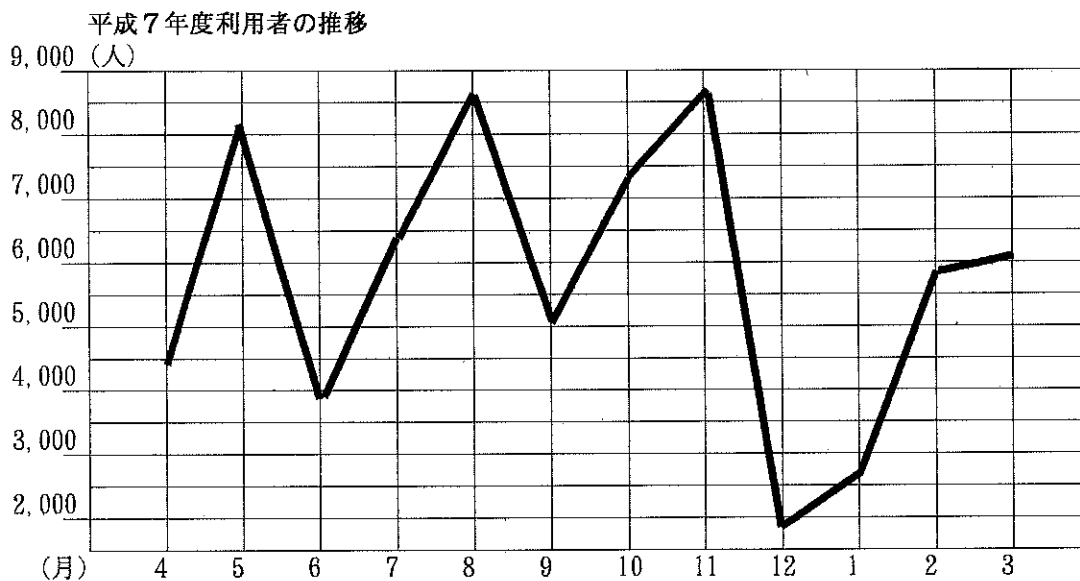
利用者から拠出された森林環境整備推進協力金は、すべて国庫に収納されることになるが、その金額に相当する金額をヤクスギランドの整備等に要する経費に充てることを基本とする。

森林環境整備推進協力金の受領業務等

- ① 金額 高校生以上 1人 300円（利用者の任意拠出とする。）
- ② 受領方法 屋久島営林署長が「ヤクスギランド美しくする会」と委託契約を締結し、「ヤクスギランドを美しくする会」が受領する。受領された「協力金」は、一ヶ月分を取りまとめて国の納入告知書により国庫へ納付する。

「ヤクスギランドを美しくする会」について

- ① 会の構成等 屋久町、屋久町区長連絡協議会、屋久町青年団連絡協議会、屋久町観光協会、屋久町商工会、屋久島交通、屋久島交通タクシー、まつばんだ交通、安房タクシー、屋久町旅館組合代表の10団体。
- ② 業務内容 主として協力金受領業務を行う外、毎年度締結する屋久島営林署長との委託契約において定められた業務を行う。
例えば、林内の清掃業務・各種パンフレット等の作成発行・駐車場の整理・環境美化啓発等。
- ③ 会の運営 屋久島営林署長との委託契約に基づいて支払われる委託契約金を主たる運営費とする。
運営費の支出は、総会、理事会等の決定に基づいて使用させることになるが、事業の目的以外に使用する事はできない。



その他

ヤクスギランドを美しくする会会則については、別紙1のとおり。

ヤクスギランドを美しくする会会則

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、ヤクスギランドを美しくする会と称する。

(会の目的)

第2条 本会は、屋久島自然休養林荒川地区（通称ヤクスギランド）の自然を保護し、森林及び利用施設の整備、環境美化等に寄与することを目的とする。

(会の事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 協力金の受領及び整理
- (2) ヤクスギランド等の清掃及び環境美化啓発
- (3) 駐車場の整理
- (4) その他本事業の実施に付帯する業務

(事務所の所在)

第4条 本会の事務所は、会長所在地内に置く。

第2章 会員

(会の組織)

第5条 本会は、屋久町・上屋久町・屋久長区長連絡協議会・上屋久町商工会・屋久町青年団連絡協議会・屋久町婦人懇話会・屋久町観光協会・屋久島交通（株）・まつばんだ交通（株）・屋久島交通タクシー（株）・（有）安房タクシー・（有）ヤクスギランド観光サービスセンター・屋久町旅館組合代表をもって組織する。

第3章 役職員

(会の役員)

第6条 本会に次の役員をおく。

- | | |
|---------|----|
| (1) 会長 | 1名 |
| (2) 副会長 | 1名 |
| (3) 理事 | 3名 |
| (4) 監事 | 2名 |

(役員を選任)

第7条 本会の会長は、屋久島自然休養林荒川地区保護管理協議会会長を充てる。

2 会長以外の役員は総会で選任し、副会長は理事の互選とする。

(役員の仕事)

第8条 会長は、本会を代表するとともに会務を総理し、総会及び理事会を召集する。

副会長は、会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。監事は本会の会務を監査する。

(職員及び仕事)

第9条 本会に次の職員を置く。

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 事務局長 | 1名 |
| (2) その他職員 | 若干名 |

事務局長及びその他職員は会長の指揮を受け会務に従事する。

(役員任期)

第10条 本会の役員任期は2年とし、再選を妨げない。但し、中途において就任した役員任期は次期改選までとする。

(役員報酬)

第11条 本会の役員は、名誉職とする。

(職員賃金等)

第12条 職員の賃金その他の労働条件については、別途定めるところによる。

第4章 会議

(会議の種類)

第13条 会議は、総会と理事会とする。

(総会)

第14条 総会は、通常総会と臨時総会の2種とする。

通常総会は、年1回これを開く。臨時総会は、会長が必要と認めるとき、または会員の
中から3分の2の同意を得て理由を明示し、会長に請求があったときこれを開く。

総会に付議する事項は次のとおりとする。

- (1) 事業計画並びに収支予算に関する事項
- (2) 前年度の事業計画並びに収支予算に関する事項
- (3) 会則の改廃に関する事項

(理事会)

第15条 理事会は、会長、副会長、理事を以て組織する。

理事会は必要の都度これを開き、会務の運営並びに本会の目的達成に必要な事業計画
を実施するとともに、次の事項を審議する。監事は理事会に出席し意見を述べることが
できる。

- (1) 総会に付議する事項
- (2) 総会の権限中理事会に委任された事項

(会議の成立)

第16条 総会は、会員の半数以上、理事会は理事総数の半数以上の出席を以て成立し、議事は
出席者の過半数を以て決定する。

可否同数の場合は議長の決するところによる。

(議長)

第17条 総会及び理事会は、会長が議長となる。

第5章 会計

(会計年度)

第18条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(経費)

第19条 本会の経費は、委託金、及び寄付金等を以て充てる。

(その他)

第20条 本会則にない事項については、総会において競技するものとする。

附 則

この会則は平成5年4月1日から施行する。

(3) 資料室の整備 (保全センター保有図書一覧表)

番号	誌名	著者(編集者)
1	7000年の記憶 屋久島 (世界遺産条約自然遺産登録記念出版写真集)	
2	Pollination Systems in a Warm Temperate Evergreen Broad-leaved Forest on Yakushima Island.	
3	Pollination Systems in the Cool Temperate Mixed Coniferous and Broad-leaved Zone of Yakushima Island.	
4	Pseudosasa Owatarii as a Forage for Sika Deer on Yakushima Island. (ヤクシカの食物としてのヤクシマダケ)	高槻成紀
5	Stand Dynamics in a Primary Warm Temperate RainForest Analyzed by the Diffusion Equation.	
6	Summer Dietary Compositions of Sika Deer on Yakushima Island Southern Japan.	
7	愛知県内のニホンザルの現状 (指定鳥獣保護調査報告書) 平成6年3月	
8	亜熱帯地域の奄美群島、種子島、屋久島の林業と林政の方向 (I)	篠原武夫
9	亜熱帯地域の奄美群島、種子島、屋久島の林業と林政の方向 (II)	篠原武夫
10	委託林台帳 (大正14年調整)	上屋久営林署
11	委託林台帳 (昭和7年8月設定)	上屋久営林署
12	委託林台帳	上屋久営林署
13	委託林期間更新に関する書類 (自:昭和22年8月 至:昭和27年7月)	上屋久営林署
14	委託林台帳 (昭和12年8月起)	上屋久営林署
15	委託林台帳 (昭和15年5月起)	上屋久営林署
16	大隅諸島、屋久島の陸生脊椎動物相について	森田忠義 (鹿児島中央高校生物課)
17	開墾地実測図 (大正12年)	上屋久営林署
18	鹿児島県屋久島におけるシカ被害の現状	末吉政秋
19	鹿児島大学農学部付属高限演習林気象報告 (1990年~1991年)	地頭蘭隆, 下川悦郎, 馬場英隆
20	鹿児島大学農学部付属高限演習林気象報告 (1992年~1993年)	地頭蘭隆, 下川悦郎, 馬場英隆
21	鹿児島大林区屋久島小林区屋久島北事業区森林調査簿 (大正12年3月)	
22	上屋久経営区経営基本案昭和26年第四次編成	吉田担当区事務所
23	上屋久経営区第4次経営案説明書 (昭和26年度) 調査	熊本営林局 上屋久営林署
24	上屋久経営区経営基案 (昭和26年第四次編成)	永田担当区事務所
25	上屋久経営区経営基案 (昭和26年第四次編成)	吉田担当区事務所
26	上屋久経営区森林調査簿 (昭和26年第四次編成)	永田担当区事務所
27	上屋久経営区森林調査簿 (昭和26年第四次編成)	吉田担当区事務所 (吉田地区)
28	上屋久経営区森林調査簿 (昭和26年第四次編成)	吉田担当区事務所 (永田地区)
29	上屋久経営区森林調査簿 (自:28年度 至:37年度)	昭和26年度第四次編成
30	上屋久公有林野官行造林地森林調査簿施行基案 (昭和32年度~昭和41年度)	昭和30年度第2次編成
31	上屋久町の埋蔵文化財 (遺跡分布調査報告書)	上屋久町教育委員会 鹿大法学部
32	上屋久町の民俗	上屋久町教育委員会 鹿大法学部
33	管内看板 林道被害一斉管内登山の一部管内概要参考	
34	希少森林植物の生存環境の解明およびゾーンダイバシティーの評価と保全法の確立	研究代表者 斉藤明
35	旧財産台帳	
36	口良部島のエラブオオコウモリ	上屋久町教育委員会
37	熊本県上屋久村処分調査図写 (昭和12年)	
38	熊本国有林の地域別森林計画書(II.4.1~II.3.3.31) (熊本森林計画区)	熊本営林局
39	熊本営林局署退職者名簿 (昭和42年1月1日現在)	林野弘済会 熊本支部
40	くまもと自然休養林参考写真集	
41	経営基案	
42	経営計画一覧表 (昭和39年11月1日現在)	熊本営林局 計画課
43	経営方針書作成の手引き (昭和43年5月)	熊本営林局 企画室
44	公有林野官公造林案説明書 (上屋久施業区)	上屋久営林署
45	公有林野官行造林台帳	
46	国有林野における森林レクリエーションの現状 (屋久杉ランド利用者の意向)	馬場裕典
47	災害写真集	
48	最近の南西諸島の林業 (上) (奄美群島、種子島、屋久島)	篠原武夫
49	最近の南西諸島の林業 (下) (奄美群島、種子島、屋久島)	篠原武夫
50	作業道新設箇所 (共用林18林班関係)	

番号	誌名	著者(編集者)
51	四季を通ずる降水量の配布状態がスギ、ヒノキに及ぼす影響(1940)	河田杰
52	自然休養林 白谷雲水峽	
53	司法事務関係書類綴り(署長用)	
54	析伐及び造林照査簿調整様式	上屋久営林署
55	析伐照査簿(甲) (自:昭和18年度 至:昭和27年度)	
56	昭和11年官吏ノ進退賞罰ニ関スル書類	上屋久営林署
57	昭和13年施業沿革史	上屋久営林署
58	昭和14年準例規	上屋久営林署
59	昭和15年度屋久島北東南事業区施業案説明書	鹿児島大林区署
60	昭和16年度屋久島東南北事業区施業案説明書	熊本営林局
61	昭和16年度屋久島東南北事業区施業方針書	熊本営林局
62	昭和18年度施業沿革史	上屋久営林署
63	昭和25年度調整造林地沿革調査カード	上屋久営林署
64	昭和26年度調査第四次経営案説明書	上屋久営林署
65	昭和26年度調査第四次経営案方針書(現地審議会用)	上屋久営林署
66	昭和26年度不要存地台帳	上屋久営林署
67	昭和29年度計画に関する書類	上屋久営林署
68	昭和2年機号例規	屋久島小林区署
69	昭和30年度第2次編成、施業計画説明書(公有林野官行造林地)(32~41)	熊本営林局上屋久営林署
70	昭和33年営林署並びに担当区登録簿	上屋久営林署
71	昭和39年度経営案に関する書類	経営課
72	昭和41年度経営計画に関する書類	上屋久営林署
73	昭和42年度経営計画に関する文書	上屋久営林署
74	昭和43年度経営計画に関する文書	上屋久営林署
75	昭和45年度経営計画に関する文書	上屋久営林署
76	昭和45年度経営方針書(昭和45年4月)	上屋久営林署
77	昭和46年度経営計画に関する文書	上屋久営林署
78	昭和46年度経営方針書(昭和46年4月)	上屋久営林署
79	昭和47年度第2次地域施業計画5ヶ年計画	上屋久営林署(取扱注意)
80	昭和47年度地域施業計画の樹立および変更に関する文書	上屋久営林署
81	昭和48年度造林請負関係検査写真集	
82	昭和49年度製品生産事業写真帳	
83	昭和49年度造林事業請負検査	
84	昭和50年度以降要除伐林分写真	
85	昭和51年度地域施業に関する文書	上屋久営林署
86	昭和55年度地域施業の樹立及び変更に関する文書	上屋久営林署
87	昭和57年度地域施業計画に関する書類	上屋久営林署
88	昭和7年度以降年次貸付台帳	楠川担当区
89	植物学雑誌(THE BOTANICAL MAGAZINE, TOKYO)	前川文夫
90	植物の宝庫・屋久島を守れ	
91	白谷雲水峽	
92	白谷外	
93	資料(昭和34年10月)	林野庁林政部 職員課
94	森林開発と自然保護(屋久島国有林を中心として)	青木尊重
95	森林施業と自然保護(第23回森林経理研究会シンポジウム)	森林土木連合協会
96	森林土木写真集	
97	世界遺産屋久島	日下田紀三
98	世界遺産条約、その概要と平成4年の我が国の「世界遺産一覧表」への推薦候補地について	内田敏博
99	全国森林資源調査の実施について	38熊経第2417号外
100	高隈演習林における雨量観測記録	地頭園隆、下川悦郎、馬田英隆
101	第1次地域施行計画伐採造林計画簿(自:45.4.1 至:52.3.31)	上屋久営林署
102	第27回太陽国体山岳競技大会参考写真集	
103	第2次経営計画森林調査簿(自:昭和37年4月 至:昭和42年3月)	永田担当区事務所
104	第2次経営計画森林調査簿(自:昭和37.4.1 至:昭和42.3.31)	
105	第2次経営計画伐採造林計画簿(自:昭和37年4月 至:42年3月)	永田担当区

番号	誌名	著者(編集者)
106	第3次経営計画伐採造林計画簿(自:42.4.1至:47.3.31)	上屋久営林署
107	第3次地域施業計画書(案)(昭和52.4.1~昭和62.3.31)	
108	第四次地域施行計画・陳情書	上屋久営林署
109	第5次地域施業計画樹立に関する書類綴り	上屋久営林署
110	地域施業計画の一斉変更について	63熊計第102号外
111	直営団地27, 28, 29, 31, 32, 33林斑の林相写真	
112	特定鳥類等調査(屋久島)	環境庁鳥類保護課
113	南西島経営計画区第1次経営計画書(33~36年)	上屋久営林署
114	南西島経営計画区上屋久事業区森林調査簿(自:昭和33年度至:昭和36年度)	
115	南西島経営計画区上屋久事業区森林調査簿	永田担当区事務所
116	南西島経営計画区事業計画簿(自:昭和33年度至:昭和36年度)	
117	南西島経営計画区第3次経営計画森林調査簿(自:42.4.1至:47.3.31)	
118	南西島経営計画区第1次経営計画書(基本事項)(自:33.年度至:36年度)	熊本営林局 計画課
119	南西島経営計画区第2次経営計画編成方針書(自:37.4.1至:42.3.31)	熊本営林局 計画課
120	南西島経営計画区第2次経営計画書(自:37.4.1至:42.3.31)	熊本営林局 計画課
121	南西島経営計画区第3次経営計画書(自:42.4.1至:47.3.31)	熊本営林局 計画課
122	南西島経営計画区第1次地域施業計画書(45.4.1~52.3.31)	熊本営林局
123	南西島経営計画区第2次地域施業計画第1次変更計画書(自:47.4.1至:57.3.31)	熊本営林局 計画課
124	南西島地域施業計画区第3次地域施業計画書の事業別内訳書	上屋久事業区
125	南西島地域施業計画区第3次地域施業計画書(52.4.1~62.3.31)	
126	南西島地域施業計画区第4次地域施業計画書(57.4.1~67.3.31)	
127	南西島地域施業計画区第5次地域施業計画書(62.4.1~72.3.31)	
128	南西島地域施業計画区第5次地域施業計画書(62.4.1~72.3.31)第1次変更計画書	
129	日本モンキーセンター年報(昭和62年度)	
130	農林漁業などにおける問題別の調査報告書(第1集)	堤元
131	残る屋久島の常緑広葉樹林の保護を	山根銀五郎
132	のびゆく上屋久町	
133	伐採計画補助簿(33~36年度)	
134	ハリ集材写真外(63年度)	
135	別冊 森林の所有する機能別の森林所在の一覧表(熊毛森林計画区)	熊本営林局
136	マイク口無線中継所及び道路新設に伴う国有林被害写真NO.1	
137	マイク口無線中継所及び道路新設に伴う国有林被害写真NO.2	
138	松形局長来署外	
139	宮崎自然休養林 おおすみ自然休養林	
140	宮之浦事業所直営団地及永田川流域現況写真	
141	宮之浦岳登山コース内風景	
142	明治39年部分林台帳附属図面	屋久島小林区署
143	めずらしい屋久島の植物(特殊な条件下に育つ固有植物たちの姿)	迫 静男
144	モンキー(屋久島特集)NO.197, 198, 199	幸丸政明
145	屋久島	
146	屋久島・安房林道において餌付いたサル社会構成と繁殖状況	揚妻直樹
147	屋久島花崗岩地帯における山くずれの周期性	下川悦郎 地頭菌隆
148	屋久島環境文化懇談会報告	鹿兒島県
149	屋久島北事業区森林調査簿(昭和16年度第二次検訂)	
150	屋久島原生林をどう未来へ残すか	東 滋
151	屋久島国有林の小面積伐採区におけるスギの更新成績	青木尊重(九大演)
152	屋久島産ガジュツ抽出物及び半離成分の抗潰瘍作用	渡辺和夫, 柴田昌裕, 矢野真吾, 葵陽, 渋谷博考, 北川勲
153	屋久島自然休養林(白谷地区)写真集	
154	屋久島自然保護運動の展開過程(地域開発と自然保護の間で)	藤原三夫
155	ヤクシマシヤクナゲと高山植物	
156	屋久島森林・林業総鑑(上巻)	
157	屋久島森林・林業総鑑(中巻)	
158	屋久島森林・林業総鑑(下巻)	
159	屋久島森林問題を考える	萩野敏雄
160	屋久島瀬切川流域の温帯針葉樹林の令構成と変更過程	鈴木英治, 樽田二郎

番号	誌名	著者(編集者)
161	屋久島調査報告書	運輸省第四港湾建設局
162	屋久島調査報告書	運輸省第四港湾建設局
163	屋久島で初の本格的総合学術調査	瀧口正三
164	屋久島と屋久杉	藤田晋輔
165	屋久島土面川流域の降雨特性について	陶山正憲
166	屋久島土面川における水門観測施設の設置と試験流域の地形、地質、植生	地頭園隆、下川悦郎、前道俊一
167	屋久島土面川流域における降雨・流出特性	地頭園隆、下川悦郎
168	屋久島永田～栗生林道調査報告書	辻本克己、大草克己
169	屋久島永田における山くずれ、土石流災害(その1)	下川悦郎、岩松暉
170	屋久島永田における山くずれ、土石流災害(その2)	下川悦郎、岩松暉
171	屋久島南事業区施業基案	
172	屋久島における択伐国材林実行の手引	
173	屋久島における山岳降水量の分布特性について	陶山正憲、竹下幸
174	屋久島における森林種鳥類の垂直分布 1 繁殖期	江口和洋、武石全滋、永田尚志、逸見泰久、川路則友
175	屋久島における森林種鳥類の垂直分布 2 非繁殖期	江口和洋、武石全滋、永田尚志、逸見泰久
176	屋久島におけるスギ天然林施業に関する基礎研究	吉田茂二郎、今永正明
177	屋久島におけるスギ天然林のアイソザム変異	津村義彦、大庭喜八郎
178	屋久島花崗岩、由来の土壌中の粘土鉱物組成と分布的特徴	岩佐安、山家富美子
179	屋久島の環境保全と森林施業利用体系に関する研究	迫替男、下川悦郎、地頭園隆、藤田晋輔、吉田茂二郎
180	屋久島の概況	熊本営林局
181	屋久島の原生林を訪ねて	柳文治郎
182	屋久島の固定試験地におけるスギ天然林の構造と成長について	吉田茂二郎、今永正明
183	屋久島の固定試験地におけるスギ天然林の林分構造・動態解析	吉田茂二郎
184	屋久島の自然と植生	田川日出夫
185	屋久島の自然保護に関する討論会(写真集S49、6、15)	正宗政教、可合功
186	屋久島の植生調査報告(荒川流域を中心として)	今永正明、吉田茂二郎、湯之上修
187	屋久島の森林施業に関する研究(Ⅰ、スギ人工林の生育立地解析)	
188	屋久島の森林施業に関する研究(Ⅱ、航空写真によるスギ人工林の林分構造評価)	今永正明、永田幸司
189	屋久島の森林利用と自然保護、レクリエーション	宮林茂幸
190	屋久島のスギ天然林分の林分構造について	吉田茂二郎、辻本克己(鹿大農)
191	屋久島のスギ天然林(1)林型と立地環境	小林繁男、加藤正樹、森貞和仁、高橋正道
192	屋久島のスギ天然林(2)林分構造と更新過程	小林繁男、加藤正樹、森貞和仁、高橋正道
193	屋久島の鳥類とその生態	小笠原、小林恒明
194	屋久島の民具	上屋久町教育委員会、鹿大法学部
195	屋久島の野生鳥獣相及び屋久犬	白井邦彦
196	屋久島の林野土壌の性質・原因及び分布に関する研究(Ⅰ)	矢木久義、森田桂行、山家富美子、河室公康、久保哲茂
197	屋久島の林野土壌の性質・原因及び分布に関する研究(Ⅱ)	山家富美子
198	屋久島の林野土壌の性質・原因及び分布に関する研究(Ⅲ)	山家富美子、久保哲茂
199	屋久島の林野土壌の性質・原因及び分布に関する研究(Ⅳ)	山家富美子、久保哲茂
200	屋久島の林野土壌の性質・原因及び分布に関する研究(Ⅴ)	三浦覚、矢木久義、久保哲茂
201	屋久島花之江河混原周辺における森林の変遷について	竹岡政治、鳥居厚志
202	屋久島東事業区森林調査簿施業基案(昭和6年第1次検訂)	
203	屋久島東事業区収獲基案(昭和18年度～27年度)	
204	屋久島フォーラム94 in TOKYO 記念誌	
205	屋久島北事業区基本図(38～40林班)	
206	屋久島北事業区収獲基案(自:昭和18年度 至:27年度)	
207	屋久島北事業区施業基案	
208	屋久島南事業区森林調査簿(昭和18年度第二次検訂)	
209	ヤクスギの天然更新について	
210	屋久杉の組織と材質に関する研究(1、屋久島と屋久杉の成立)	藤田晋輔
211	やくすぎ銘木採材について	
212	屋久杉ランドにおける森林レクリエーション(1) 利用者の意向	馬場裕典、吉良今朝芳、松下幸司
213	野生動物保護に必要な観光客に対する指導致と道路管理	揚妻直樹
214	ヤマモモの豊凶年によるサルの葉食行動の変化	揚妻直樹、デビット、A、ヒル
215	わが町の郷土教育資料(上屋久町の歴史編)	上屋久町教育委員会

Ⅳ その他の事業

1 森林パトロールの実施

ゴールデンウィーク期間中

年 月 日	平成7年5月2日			火曜日			天気 晴れ	
監視員氏名	林 友和 河本 正人							
時 間	～10:30	～11:00	～11:30	～12:00	～12:30	～13:00	～13:30	合 計
登山者数 (山泊者)	30人 (4人)	7人 (1人)	23人 (6人)	24人 (2人)	6人 (0人)	20人 (4人)	2人 (1人)	112人 (18人)
環視指導内容 登山者の動向 感想等	10:30～13:30までパトロール 旧高塚小屋のトイレが汚い。 花之江河への案内板がわかりにくい。							

月 日	平成7年5月6日			土曜日			天気 晴れ	
監視員氏名	小島 善雄 下崎 哲也							
時 間	～10:30	～11:00	～11:30	～12:00	～12:30	～13:00	～13:30	合 計
登山者数 (山泊者)	15人 (1人)	53人 (0人)	11人 (0人)	11人 (0人)	5人 (0人)	2人 (0人)	0人 (0人)	97人 (1人)
環視指導内容 登山者の動向 感想等	10:30～13:30までパトロール ペットボトルとお菓子袋の放置があった。 男性一人が立ち入り禁止区域に向かったので注意したら指導に従った。 旧高塚小屋のトイレから20m奥まった所に用足しのあとがあった。							

夏休み期間中

月 日	平成7年7月21日			金曜日			天気 曇り	
監視員氏名	林 友和 木村 宏							
時 間	～10:30	～11:00	～11:30	～12:00	～12:30	～13:00	合 計	
登山者数 (山泊者)	16人 (2人)	2人 (0人)	19人 (0人)	11人 (0人)	14人 (0人)	3人 (0人)		65人 (2人)
環視指導内容 登山者の動向 感想等	10:00～13:00までパトロール 特に異状は、見られなかった。							

月 日	平成7年7月26日			金曜日			天気 晴れ	
監視員氏名	小島善雄 迫田秋美 大寺義宏 下崎哲也							
時 間	～10:30	～11:00	～11:30	～12:00	～12:30	～13:00	合 計	
登山者数 (山泊者)	12人 (0人)	40人 (0人)	7人 (0人)	121人 (0人)	0人 (5人)	0人 (0人)		180人 (5人)
環視指導内容 登山者の動向 感想等	10:00～10:30までパトロール この日は、鹿児島県立青少年研修センター主催のアドベンチャーの旅事業が計画されておりパトロールのかたわら森林教室を実施。また、上屋久町教育委員会主催の縄文杉登山も計画されており混雑が予想されたが、マナーも良くゴミ等捨てる人はいなかった。							

月 日	平成7年7月30日			日曜日			天気 曇り	
監視員氏名	百田喜久郎 中村英之							
時 間	～10:30	～11:00	～11:30	～12:00	～12:30	～13:00	合 計	
登山者数 (山泊者)	18人 (0人)	8人 (0人)	5人 (1人)	22人 (0人)	30人 (0人)	80人 (11人)		163人 (12人)
環視指導内容 登山者の動向 感想等	10:00～13:00までパトロール、特に異状は、見られなかった。 東京、兵庫、京都、広島、北九州、熊本、岩手、などからの登山客、最高齢は、広島の80歳の男性。旧高塚小屋の異臭がたまらないとの登山客の話。							

夏休み期間中

月 日	平成7年8月5日			土曜日		天気 晴れのち曇り		
監視員氏名	福岡忠行 管 和光 河本正人							
時 間	~10:30	~11:00	~11:30	~12:00	~12:30	~13:00	合 計	
登山者数 (山泊者)	9人 (0人)	3人 (0人)	35人 (3人)	20人 (2人)	13人 (5人)	81人 (2人)	161人 (12人)	
環視指導内容 登山者の動向 感想等	10:00~13:00までパトロール, 特に異状は, 見られなかった。 縄文杉までの正確な時間と距離の看板整備をしてほしい。							

月 日	平成7年8月10日			木曜日		天気 晴れのち曇り		
監視員氏名	山川裕一 河本正人							
時 間	~10:30	~11:00	~11:30	~12:00	~12:30	~13:00	合 計	
登山者数 (山泊者)	8人 (0人)	12人 (1人)	25人 (0人)	8人 (0人)	4人 (0人)	6人 (0人)	63人 (1人)	
環視指導内容 登山者の動向 感想等	10:00~13:00までパトロール, 特に異状は, 見られなかった。							

月 日	平成7年8月15日			水曜日		天気 雨		
監視員氏名	大寺義宏 牧 伸一							
時 間	~10:30	~11:00	~11:30	~12:00	~12:30	~13:00	合 計	
登山者数 (山泊者)	19人 (2人)	23人 (5人)	46人 (0人)	14人 (0人)	9人 (0人)	20人 (0人)	131人 (7人)	
環視指導内容 登山者の動向 感想等	10:00~13:00までパトロール, 特に異状は, 見られなかった。 軽装での登山者が多い, マナーは良かった。 県外の人が多い。							

月 日	平成7年8月20日			日曜日		天気 晴れ		
監視員氏名	下池和彦 甲斐考生							
時 間	~10:30	~11:00	~11:30	~12:00	~12:30	~13:00	合 計	
登山者数 (山泊者)	0人	14人	11人	36人	7人	6人	74人 (2人)	
環視指導内容 登山者の動向 感想等	10:00~13:00までパトロール。 立入禁止区域内に入っている人が一名いたので厳しく注意した, 本人は反省しているようだった。							

月 日	平成7年8月25日			金曜日		天気 曇りのち晴れ		
監視員氏名	百田喜久郎 中西雄一郎							
時 間	~10:30	~11:00	~11:30	~12:00	~12:30	~13:00	合 計	
登山者数 (山泊者)	7人 (1人)	3人 (3人)	13人 (0人)	21人 (2人)	11人 (3人)	1人 (0人)	56人 (9人)	
環視指導内容 登山者の動向 感想等	10:00~13:00までパトロール, 特に異状は, 見られなかった。							

月 日	平成7年8月30日			水曜日		天気 晴れ		
監視員氏名	米丸栄輝 河本正人							
時 間	~10:30	~11:00	~11:30	~12:00	~12:30	~13:00	合 計	
登山者数 (山泊者)	5人 (0人)	5人 (0人)	3人 (0人)	17人 (0人)	2人 (0人)	0人 (0人)	32人 (0人)	
環視指導内容 登山者の動向 感想等	10:00~13:00までパトロール, 特に異状は, 見られなかった。							

2 屋久島の森シンポジウム

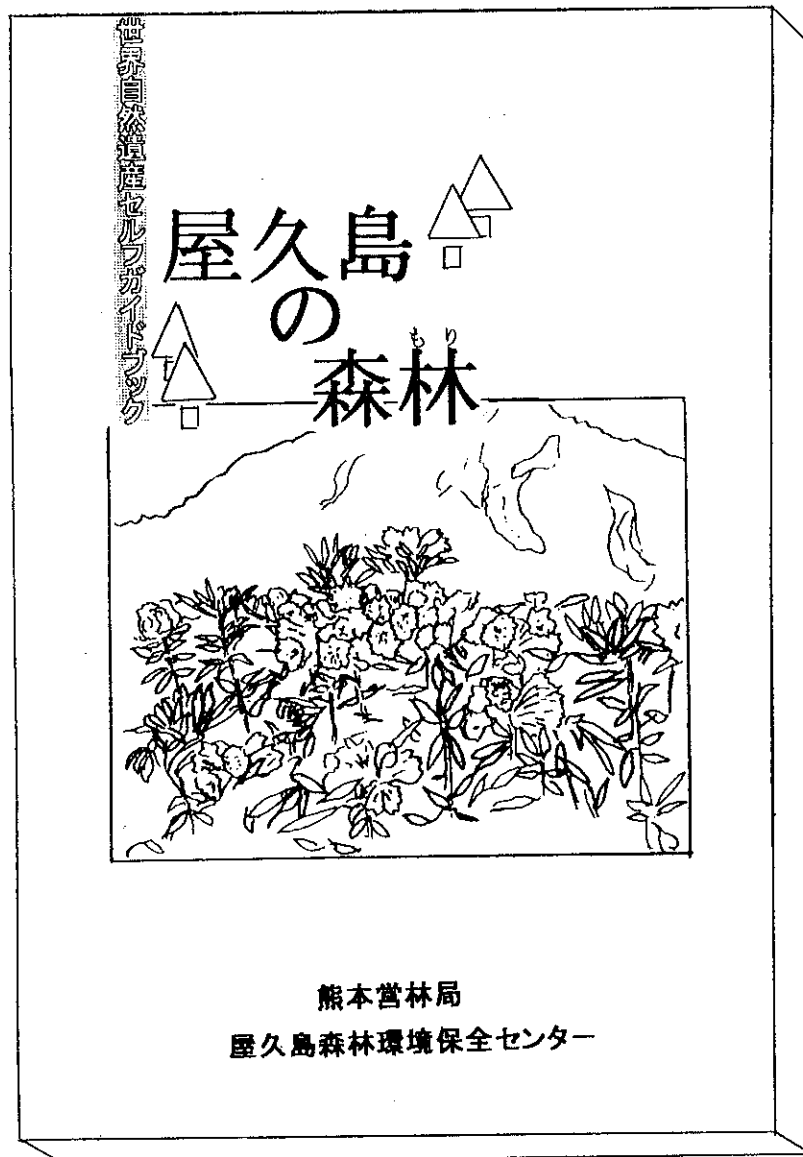
- 屋久島森林環境保全センター設置記念 —
— 鹿児島県草の根交流サミット地域交流会 —

イベントタイトル	森・水・人のハーモニー 『屋久島の森シンポジウム』		開催日時	平成7年11月1日・2日	
開催場所	第1日目 14:00～16:30	現地視察（白谷雲水峽） 米国人レインジャー等約30名を現地案内 「原生林の保全と利活用を考える。」	動員数	約30名	
	第2日目 13:30～17:00	シンポジウム （屋久島離島開発総合センター）	動員数	約500名	
主催	上屋久町・屋久島森林環境保全センター・屋久島の森シンポジウム実行委員会				
後援	林野庁・環境庁・鹿児島県・屋久町・屋久島環境文化財団・南日本新聞社・KTS 鹿児島県日米草の根交流サミット実行委員会				
協賛	屋久島観光連絡協議会				
主旨	「屋久島の森シンポジウム」のねらい 世界遺産リストへの登録を機に、日本で初めて屋久島森林環境保全センターが上屋久町に設置された。これを記念するとともに、世界の屋久島における森林の保全と利活用の意義を、内外の多くの方々に強力にアピールするために、このシンポジウムを開催し、同時に鹿児島県が進める日米草の根交流サミット大会（米国人レインジャー等）地域交流会を開催するものである。				
内容	11月1日（水）	13時：町長主催歓迎セレモニー出席者50名 ～懇談～ 講演：「屋久島の森を通じての日米の国立公園制度の違いについて」 環境庁世界自然遺産生態管理官 佐山 浩 14時～16時30分 現地視察（白谷雲水峽） シンポジウムのための事前研修 「清流・巨岩・溪谷・原生林を鑑賞する」 米国人レインジャー等含め約30名 ホストファミリーとの対面式のあと各家庭へ移動			
	11月2日（木）	午前中は各家庭（地域）での交流 <視察見学など>屋久島一周・世界遺産指定地域視察・地場産業見学、体験・観光ルートなど 13時30分 森・水・人のハーモニー「屋久島の森シンポジウム」 13:30～13:40 オープニングセレモニー ＝トロッコばやし＝ 屋久島太鼓保存会 13:40～13:50 開会のことば 実行委員会会長あいさつ 寺田 猛 13:50～14:00 屋久島森林環境保全センター概要説明 （スライドによる説明） 熊本営林局自然遺産保全調整官 小島 善雄 14:00～14:05 上屋久町長あいさつ 矢野 勝巳 14:05～15:30 基調講演 『森・水・人のきずな』 東京大学名誉教授・（財）自然環境研究センター会長 佐藤大七郎 『国立公園管理の意義とレインジャーの使命達成の為の役割』 コロ라도州、ロッキン山脈地区、チーフレインジャー Mr. JAMES REYNOLDS イエローストーン国立公園チーフパークレインジャー Mr. DAN R. SHOLLY			
内容	15:30～17:00	パネルディスカッション「森林の保全とその利活用について」 パネリスト 熊本営林局森林管理部長 三島 征一 鹿児島大学教授・上屋久町「明日への道」懇話会委員 田川日出夫 コロ라도州・ナショナルパークサービス地域資源管理員 Mr. ROBERT L. MOON イエローストーン国立公園資源調査管理者 Mr. JOHN VARLEY			

<p>内 容</p>	<p>屋久島産業文化研究所 有限会社 生命の島 代表 日吉 眞夫 コーディネーター 鹿児島経済大学教授・上屋久町「明日への道」懇話会会長 高橋 良宣 17:00 閉会 18:30～20:00 交流会（米国人レインジャー等・シンポジウム関係者） 会場：シーサイドホテル屋久島</p>
<p>成 果</p>	<p>11月1日（水）現地視察（白谷雲水峡） 米国人レインジャーの興味は森林の保全と管理に集中し、保全センター職員の案内に、「観光客はどこまで入っていいの」「遊歩道散策のルール」などの質問が出された。 特に関心が強かったのが、樹間に整備された木製の遊歩道で「木の根が踏み荒らされるのを防ぎ、観光客に入ってよい範囲を明らかにするためだ」という職員の説明に、「同感。いいことだ」と笑顔を見せた。 このように、遊歩道の整備の在り方が、自然保護や公園管理の先進国である米国のレインジャーと基本的に考えが同じであることが大きな自信となった。</p> <p>11月2日（木）パネルディスカッションの様様について。 高橋良宣氏 屋久島の魅力とは。 三島征一氏（熊本営林局森林管理部長） 以前は、木材生産という機能が森林の最初の位置付けだった。しかし最近は森林生態系保護地域を増やし、観光を目的とした森林を重視している。屋久島はそのモデルだ。 田川日出夫氏（鹿児島大学教授） 屋久島は熱帯植物から照葉樹、針葉樹、草原部まで植生に特異性がある。サル、シカだけという動物の分布も特徴の一つ。何も手を加えないで人を招ける自然がある。それが屋久島の力だ。 日吉眞夫氏（屋久島産業文化研究所） 屋久島の魅力にひかれて移住。すでに二十年以上になる。屋久島は日本人の魂のふるさと。私の血液の中のかすかな記憶が掘り起こされる。これは森に限らない。里、海にもあふれている。 高橋良宣氏 アメリカの国立公園の現状、世界的な森林保護のあり方は。 ロバート・L・ムーン氏（コロラド州国立公園地域資源管理官） アメリカの国立公園は百年以上の歴史がある。以前は地図に線を引くだけで公園になると思われていた。だが周囲の開発が進み、公園は人間の開発地域に囲まれた「島」になった。汚染された空気、水は線を越えて次々と入ってくる。線を引くだけでは自然は守れない。 ジョン・バリー氏（イエローストーン国立公園資源調査管理者） 今世紀初頭は世界の原生林にとって破壊的な時期だった。米国の国立公園では今、枯れ木も生きた木も一切伐採しない。人間が保護するのではなく、最も原始的な形で原生林のまま残すという考え。人間の力には限りがある。 高橋 これからの森林保護、自然保護はどうあるべきか。そして屋久島は。 日吉 島の人々の生活には、例えば一年間に何日かは絶対山に入らない、というような山の神を祭る行事が残っている。こういう「形なきもの」をもっといい形で伝え、屋久島の「自然愛護産業」のようなものを考えていい。 バリー 自然を守る理由には信仰的、社会的、科学的などの理由がある。イエローストーンに残っている間欠泉では、ペンキを食べるバクテリアなど人間に役に立つ微生物がいることが分かり、研究が進んでいる。自然保護には、経済的な理由もあることをもっと知ってほしい。 三島 木材として木を伐採できる場所が少なくなった。産業としての屋久杉の資源を考えると、製品のデザインなども含めた屋久杉のブランドといったものを考える時期にある。 ムーン 白谷雲水峡では、原生林に近いところまで整備された歩道などが、自然に対しても安全を提供していることに驚いた。これからは公園を島と考えるべきではない。世界のいろいろな人にこの島を見てほしい。周囲の地域、人々と協力して公園をつくっていくべきだ。私たちの小さな変化が周囲に大きな変化をもたらすこともできるはずだ。</p>

3 世界自然遺産セルフガイドブック 「屋久島の森林」の作成

作成の主旨	屋久島の森林に関する教育、啓発活動
主な内容	屋久島の歴史、自然、主要登山道の紹介 屋久島の森林入門・縄文杉、宮之浦岳登山／楠川歩道・大株歩道・黒味岳、宮之浦岳登山／宮之浦岳登山歩道・永田岳登山／永田岳歩道・屋久島山岳登山の心構え等。 規格B6判オールカラー印刷、87頁。
平成8年度新規収入	屋久島及び関係方面で発売 一冊1,000円



4 広報活動 保全センター所報「洋上アルプス」の作成

作成の主旨	保全センターの業務、活動等の理解を地域や関係方面に深める。
主な送付先	熊本営林局（広報室へ依頼し他局へも送付）・熊毛支庁屋久島事務所・上屋久町・屋久町・屋久島警察署 上屋久町教育委員会（屋久島の各小中学校へも送付）・上屋久町観光協会・ヤクスギランドを美しくする 会・屋久杉自然館・鹿児島県屋久島環境文化財団・森林総合研究所九州支所・林木育種センター九州育種 場・鹿児島大学農学部 吉田茂二郎教授・全林野・日林労両労働組合
その他	保全センター職員全員が持ち回りにより担当、毎月3日に発行し7年度末まで12号を発行。

V 保全センターの主要行事

月 日	項 目	場 所	主 催 者	参 加 者
4. 5 (水)	紀元杉セレモニー	紀元杉	保全センター	調整官, 所長 外2名
4. 7 (金)	屋久島施設整備検討会	熊毛支庁屋久島事務所	鹿児島県	調整官, 所長 外1名
4.10 (月)	屋久杉自然館「屋久杉の 館」オープン落成式	安房 屋久杉の館	屋久町	調整官, 所長
4.17 (月)	山岳部利用対策協議会	熊毛支庁屋久島事務所	山岳部利用対策協議会	調整官, 所長 外1名
4.18 (火)	屋久島山岳山開き	白谷雲水峽	白谷雲水峽保護管理協議 会	調整官, 所長 外1名
5.10 (水)	屋久島の森シンポジウム 打合せ	屋久島離島開発総合セ ンター	上屋久町 保全センター	調整官, 所長 外1名
5.12 (金)	打合せ会議 モリツグプロット設置	熊本営林局	熊本営林局	調整官外1名
5.27 (土)	日本山岳会シンポジウム	屋久杉自然館	日本山岳会	調整官
6. 6 (火)	九州林政連絡協議会	サイト・ホール屋久島	九州林政連絡協議会	調整官
6.12 (火)	屋久島高校縄文杉登山に 伴う事前学習	屋久島高校	保全センター	調整官外1名
6.16 (金)	白谷雲水峽保護管理協議 会定期総会	サイト・ホール屋久島	白谷雲水峽保護管理協議 会	調整官, 所長 外2名
6.17 (土)	生命の島10周年記念祝賀 会	縄文閣	(有) 生命の島	調整官, 所長
7. 6 (木)	山岳部利用対策協会	熊毛支庁屋久島事務所	山岳部利用対策協議会	調整官, 所長 外1名
7.20 (木)	大沢タワー落成式	平瀬国有林4林班	千葉大学理学部	調整官外1名
8. 1 (火)	白谷雲水峽清掃	白谷雲水峽	白谷雲水峽保護管理協議 会・上屋久町観光協会 保全センター	所長外7名
8. 3 (木) ～5 (土)	「明日への道」懇話会 口永良部島シンポジウム	口永良部島	上屋久町	調整官
8. 7 (月) ～8 (火)	子供がっ・イン屋久島	屋久町総合センター	読売新聞社	調整官
9. 4 (月)	屋久島の森シンポジウム実行 委員会	屋久島離島開発総合セ ンター	上屋久町 保全センター	所長外1名
9.10 (日)	自然に親しむ集い (太忠岳探勝登山の集い)	ヤクスギランド～太忠 岳	環境庁	百田, 大寺 下崎
9.12 (火)	山岳部利用対策協議会	熊毛支庁屋久島事務所	山岳部利用対策協議会	調整官, 所長 外1名

月 日	項 目	場 所	主 催 者	参 加 者
9. 28 (木) ～29 (金)	屋久島世界遺産地域連絡協議会	鹿児島市	世界遺産地域連絡協議会	調整官
10. 5 (木)	世界遺産管理計画公聴会	安房地区公民館	世界遺産地域連絡協議会	調整官外1名
10. 23 (金)	屋久島まつり実行委員会 (ツーデーマーチ)	屋久島離島開発総合センター	上屋久町	大寺
10. 27 (金)	屋久島世界遺産地域連絡協議会	鹿児島市	世界遺産地域連絡協議会	調整官
10. 31 (火)	電気自動車出発式	上屋久町	上屋久町	調整官
11. 1 (水)	屋久島の森シンポジウム (白谷雲水峡案内)	白谷雲水峡	上屋久町 保全センター	調整官, 所長 外2名
11. 2 (木)	屋久島の森シンポジウム (パネディスカッション等)	屋久島離島開発総合センター	上屋久町 保全センター	調整官, 所長 外6名
11. 10 (金)	屋久島世界遺産地域連絡協議会	鹿児島市	世界遺産地域連絡協議会	調整官
11. 12 (日)	屋久町ウォークラリー	ヤクスギランド	屋久町	百田, 河本
11. 15 (水) ～16 (木)	流域管理システム推進発表大会	熊本営林局	熊本営林局	大寺, 下崎 林
11. 19 (日)	屋久島祭り (ツーデーマーチ)	上屋久町NTT広場	上屋久町	調整官, 所長 外2名
1. 16 (火)	屋久島世界遺産地域連絡協議会	鹿児島市	世界遺産地域連絡協議会	調整官
1. 22 (月)	国立公園管理計画検討会	屋久島離島開発総合センター	環境庁	調整官
1. 24 (水)	屋久町環境審議会 上屋久町環境審議会	屋久町役場 上屋久町役場	屋久町 上屋久町	調整官, 所長
2. 2 (金)	熊毛地区植樹祭	上屋久町永田松原公園	鹿児島県	調整官, 所長
2. 13 (火)	屋久島森林・林業推進検討会議	鹿児島市	熊本営林局	調整官
2. 19 (月)	屋久島環境文化財団意見交換会	熊毛支庁屋久島事務所	屋久島環境文化財団	調整官, 所長
3. 18 (月)	大自然緑の会設立総会	上屋久町	白谷雲水峡保護管理協議会	調整官, 所長 外2名
3. 23 (土)	アムウェイ来所 ヤマシヤクガ 増殖箇所案内	耳岳国有林62林班	保全センター	所長外2名
3. 23 (土)	屋久島7000年の森づくり 記念植樹指導	屋久町有林	屋久町	所長外7名

Ⅵ 新聞報道

年 月 日	マスコミ紙	報 道 の 概 要
7. 3. 2	読売新聞	「屋久島森林環境保全センターが1日オープン」林野庁が世界遺産に登録された屋久島を森林生態の調査や保護の方法を研究するため設けられ、国有林保全を専門的に担当する部署の設置は全国で初めて。
7. 4. 2	読売新聞	屋久島の森に番人誕生、3月1日に就任した小島善雄・熊本営林局自然遺産保全調整官は、屋久島森林環境保全センターに駐在、屋久島の自然保全をと張り切っている。
7. 4. 7	南日本新聞	(かお)にて、屋久島森林環境保全センター所長・迫田秋美を紹介
7. 4. 18	南日本新聞	屋久島山岳部利用対策協議会は、17日ゴールデンウィーク期間中の来島者対策を決め、森林環境保全センターからも監視指導員を出しマナー啓発に努める。
7. 5. 30	南日本新聞	屋久島営林署の自然維持地域保安林整備事業で紀元杉を囲む歩道が完成した、事業費は1, 100万円、板を使った丈夫な作りで手すりも設けた。
7. 7. 7	南日本新聞	屋久島山岳部利用対策協議会は、GWに続き夏休み期間中も縄文杉周辺等に指導員を配置し、観光客のマナー指導や調査に当たる。 森林環境保全センターからも職員を配置。
7. 7. 25	南日本新聞	林野庁は24日「水源の森百選」を発表、屋久島からは紙利他に雲水峽の「宮之浦岳国有林」が選定された。
7. 8. 9	読売新聞	「緑を守る子供がミット・イ屋久島」のメインのサミットが8日開催され、小島自然遺産保全調整官がアドバイザーとして出席。
7. 8. 9	読売新聞	「水と木と人と」で屋久島森林環境保全センターを紹介。 全国で初めて、森林保護だけを目的にした新しいセクションが発足した。
7. 8. 15	南日本新聞	屋久島登山マナーまだまだ、ゴミ一日に3～5キロ 屋久島山岳部利用対策協議会では、毎日4人の監視員を出しているほか、港や空港でリーフレットを配布するなどして登山マナーの向上を呼びかけている。
7. 8. 18	毎日新聞	水源地保護へ快適な森づくり 「水源の森百選」を選定している林野庁は17日、来年度から「森林環境整備総合整備事業」（仮称）に着手する方針を決めた。
7. 9. 4	南日本新聞	「明日への道懇話会」口良部シンポジウムに、パネリストとして保全センターの小島調整官が参加、「全国的に失われつつあるクロマツが多い」と評価する一方、山の手入れの必要性を説明した。
7. 9. 12	南日本新聞	熊本営林局は、縄文杉の根の保全と周辺の植生を復元させるため、二つの高架式見学台を設置する方針を固め環境庁と協議に入った。
7. 9. 12	南日本新聞	屋久島自然休養林の白谷雲水峽に弥生杉を巡る1.9kmの散歩歩道が完成した。屋久島森林環境保全センターがヤクスギランドに続いて整備したもので、石畳や厚い板を使い手すりもつけた、気軽な服装で自然を味わえる。
7. 9. 13	南日本新聞	屋久島山岳部利用対策協議会が12日開かれ荒川鉄橋について「危険防止のため歩行者用の板を広げるなど応急措置が必要」という意見が出た。
7. 9. 14	南日本新聞	屋久島山岳部利用対策協議会が12日に屋久町で開かれ、縄文杉を訪れた人は一日平均94人で、登山者のマナーは総じて良かった事などが報告された。
7. 9. 21	熊日新聞	世界遺産貨幣セットを通販 大蔵省造幣局は24日、4種類の「世界遺産貨幣セット」の通信販売を始めると発表した。 世界文化遺産の「姫路城」と「古都京都の文化財」世界自然遺産の「屋久島」と「白神山地の」4種類。
7. 9. 28	南日本新聞	屋久島の世界遺産地域の保全について林野庁、環境庁、文化庁が策定を進めている管理計画の骨子案が28日明らかになった。 同計画で設置をうたっている国の出先機関と鹿児島県、県教委などによる「屋久島世界遺産地域連絡協議会」が同日発足し、公表した。
7. 9. 29	日本経済新聞	屋久島保護でスクラム 世界自然遺産・屋久島の保護管理体制を整えるため、林野庁、環境庁、文化庁は28日、地元鹿児島県などと共同で「屋久島世界遺産地域連絡協議会」を設立管理計画の策定に向け協議を始めた。

年 月 日	マスコミ紙	報 道 の 概 要
7. 9. 29	西日本新聞	屋久島保全へ組織 世界遺産に登録された屋久島の環境保全を進めるため、林野庁、環境庁、文化庁は28日屋久島世界遺産地域連絡協議会を設立した。
7. 9. 29	読売新聞	屋久島世界遺産守れ、環境汚染防止へ骨子案 林野庁、環境庁、文化庁は28日、屋久島の世界遺産地域の管理計画骨子案を発表した。
7. 9. 29	熊日新聞	東京の専門学校屋久島で自然保護の実習 環境庁の国立公園管理官（レンジャー）や環境アセスメントの調査員など、自然保護と管理の専門家を養成する学科を持つ東洋工学専門学校（東京都渋谷区佐藤大七郎校長）は10月から屋久島でフィールドワークの実習を行う。
7. 9. 30	南日本新聞	屋久島登山遭難の捜索費初動三日間は行政負担 屋久島山岳遭難対策防止協会は、29日通常総会を開き、遭難者の捜査費用を本年度から初動三日間は、地元両町で負担する事を明らかにした。
7. 10. 1	南日本新聞	屋久島の空気を守ろう、電気自動車5台導入 上屋久、屋久両町は、環境庁の助成を受け試験的に3年間行政連絡用に電気自動車を導入する。
7. 10. 6	南日本新聞	屋久島世界遺産管理計画に対する地元意見を聞く会を開催、屋久島世界遺産地域連絡協議会が主催し、地元住民25名が参加、住民からは、島全体の見地からの不安や意見が出た。
7. 10. 28	南日本新聞	屋久島縄文杉を守ろう「展望デッキ来年3月完成」 熊本営林局は、27日登山客用の展望デッキを縄文杉から10m離れた場所に設置することを発表した。
7. 11. 9	南日本新聞	米レンジャーが屋久島登山、木板の遊歩道に関心が集中、次々に質問がでた。
7. 11. 9	南日本新聞	日米交流サミットから「屋久島の森シンポジウム」 第5回日米草の根交流サミット鹿児島大会からシンポジウムを中心にパネルディスカッションを紹介。
7. 11. 22	西日本、熊日 読売、毎日 日経	「屋久島の工作物規制」自然遺産の管理計画決定 屋久島と白神山地の遺産地域管理計画を決定し、11月中旬に世界遺産条約の事務局に提出する。
7. 11. 22	南日本新聞	屋久島と白神山地の遺産管理計画を11月21日発表、林野、環境、文化の3庁で策定。
7. 11. 23	産経新聞	世界自然遺産の管理計画を策定
7. 11. 25	熊日新聞	遺産地域管理計画が決まった。 批判の声を載せている。
7. 12. 11	木材新聞	写真で見る世界自然遺産の屋久島 「屋久島遺産地域管理計画」の説明と屋久島を写真で説明。
7. 12. 20	朝日新聞	縄文杉に展望デッキ 登山客が「一極集中」長寿保つ窮余の一策、デッキの作業現場でのレポート。
7. 12. 30	朝日新聞	屋久島の「財産」痛めかねぬ県道。 西部林道の拡幅改修工事計画の矛盾点を記事に。
8. 1. 21	熊日新聞	森のひみつ（長生きの木、巨樹）木の寿命はどれくらいか、縄文杉は数千年。
8. 2. 28	西日本新聞	屋久杉の土埋木窃盗犯検挙。 土埋木2個を盗み出そうとした地元男性3人が営林署職員に目撃され検挙された。
8. 3. 3	朝日新聞	県道の拡幅改修工事に「待った」サルの生態系乱れる。
8. 3. 8	読売新聞	縄文杉にやさしい展望台、高架式展望台が完成した。
8. 3. 10	日本経済新聞	縄文杉の保護目的・展望デッキは完成 樹齢七千余年といわれる世界自然遺産・屋久島の縄文杉を心ない登山客から保護するため、林野庁と環境庁、鹿児島県などが建設していた同杉の展望デッキがこのほど完成した。
8. 3. 12	朝日新聞	縄文杉を後世に・初の遺伝子保存作業へ。 樹齢七千二百年の縄文杉など、屋久島に自生する屋久杉の貴重な遺伝子を後世に残そうと、林野庁の林木育種センター九州育種場は12日から、熊本営林局と共同で初の遺伝子保存作業に着手する。